

名古屋芸術大学

後援会報

第52号 2012年3月31日発行

CONTENTS

1	目次
2	ごあいさつ
3	名古屋芸術大学近況報告
11	在学生及び卒業生の展覧会・各種コンクール等受賞結果
12	2011年度デザイン「Review」展のご案内 大学へのお問合せ先一覧
13	私が就職内定をもらうまで
15	親の想い
16	子の想い
17	東キャンパス芸大祭報告
18	西キャンパス芸大祭報告
19	音楽学部第39回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科第14回修了演奏会報告 大学院美術研究科・デザイン研究科第16回修了制作展報告
20	第39回卒業制作展報告 学生部からのメッセージ
21	後援会補助公開講座実施報告
26	第22回生涯学習大学公開講座報告
27	2011年度ブライトン大学賞
28	海外美術研修報告
29	後援会研修旅行報告
30	同窓会総会・卒業生懇親会報告
31	大学運営組織図
32	後援会授業料貸付事業のご紹介
33	名古屋芸術大学後援会会則
34	木祖セミナーハウスのご紹介 編集後記

ごあいさつ



後援会長 佐藤 俊明

卒業生の皆さん、そしてご父兄の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

ここに至るまでには、卒業生ご本人様もご家族の皆様も共に多くの努力とご苦勞がおありだったことと思います。これから社会に出て、年齢を重ねるほどに大学時代の4年間でどれほど貴重で贅沢な時間であったか、きっと深く実感していかれるのではないのでしょうか。

社会には、様々な決まりごとがあります。円滑に物事を進めていくために築かれてきた歴史的な伝統や形式もあると思います。

そんな中で、今日本も世界も色々な意味において、過去の経験や常識的認識だけでは乗り越えられないような大きな転換点に差し掛かって来ているように思います。そんな閉塞感漂う転換期の時代に重要になるのは人の心がどう動いていくかということではないのでしょうか。

私は昨年末の紅白歌合戦に出演した長淵剛の「ひとつ」という楽曲とパフォーマンスにとっても心を動かされました。震災という未曾有の危機を経験し、今もその現実と向き合いながら生きる現地の人々。その現場に寄り添って、人々と悲しみも感動も共有しながらひとつになったからこそこの楽曲が生まれたのではないかと思います。

若い頃から、真剣に人生の本質的世界を音楽活動を通じて、苦しみながらも深く掘り下げてきた結果、彼は人の魂を揺さぶるような芸術の境地に辿り着いたように感じます。たくさんの方の心を動かし、今苦しみ悲しんでいる人達の心を慰め、明日に向かって歩みだす勇気を与えるこの芸術の偉大な力。皆さんが学んできた芸術の心と技能は、どんな分野に進もうとも、様々な形で人々の心を動かし影響を与えていくものだと思います。そういう芸大卒業生は社会にとってとても貴重な人材であると私は信じています。



学長 竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

2012年の大学卒業生の就職は、2年前のリーマンショックや円高、そして、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい状況にあります。政府や産業界において新卒・既卒者を含めて多くの支援策が出されていますが、その効果は不透明な状況です。

さて、本学では地域や企業が行うビジネスマッチングに積極的に参加し、情報を収集し学生の就職を支援していますが、それに加えキャリア教育の充実と推進を強化する必要があると考えています。本年度は学内改革として、名古屋芸術大学が芸術系総合大学として発展する施策を講じてきました。カリキュラム改編、学生支援、広報活動の一元化、そして、FDとSDに対する取り組みです。カリキュラムは、4学部共通する教養科目に各学部の基礎科目を加え、専門科目の充実を図る目的で改編を検討してきました。文化・芸術、人間教育に関わる人材育成のために新たな方向性を打ち出すものです。

学生支援では、奨学金規程の中に「兄弟姉妹学費減免規程」を設け、本学学部及び大学院の正規課程に同時期に在籍する兄弟姉妹の学生のうち最も高い授業料を減免し、また、学生の学習意欲向上のため「名古屋芸術大学学生表彰規程」を設け、成績優秀学生を卒業又は修了する年度に表彰することを実施します。

広報活動では、学部単位で行っていた広報活動を一元化することで、入試広報の他、情報発信や高大連携、地域貢献を効果的に実施する事が出来ます。FD及びSDについては、大学の理念・目標に照らし自らの活動状況について、点検・評価し改善を行って参ります。

卒業生の皆さんには、引き続き本学の教育改革にご支援頂くようお願い申し上げます。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽コースでは、本年度も定例のオペラ公演として、2月16日、17日に名古屋市芸術創造センターで、2月21日に岡崎市シビックセンターコロネットに於て計3回の公演を行いました。

本年度は、ヨハン・シュトラウス二世のオペレッタ「こもり」を上演しました。この「喜歌劇」は、数あるウィンナ・オペレッタの中でも最高傑作の一つとされる作品で、優雅で軽快なウィンナ・ワルツ、有名なメロディーが全編を通して流れる、洒落た大人のお芝居です。このような音楽的にも演技的にも、かなりのテクニックが必要な作品を、あまり経験のない学生が演じられるのか、という不安もあったのですが、総監督、演出の澤脇教授の熱血指導と優秀な卒業生等の協力で、中々の出来栄であったとの報告をいたします。

その他、2月8日にはこれも定例の「第10回歌曲の夕べ」がザ・コンサートホールで行われ、選ばれた学生達が多数の観客の中、将来性のある演奏をしてくれました。

声楽コース 教授 土佐 誠

弦管打コース

弦管打コースでは、オーケストラが昨年に続き今年度も合唱つきの、マーラーの「復活」を致しました。オーケストラも本当に難しかったのですが、合唱も、ソロも難曲をこなし、感動の中で演奏できました。

2月のはじめ、オランダのデハスケ社の依頼で、ウィンドオーケストラが、レコーディングをシヤン・ハーデルマン作曲「リフレクション」ヤン・バンデルロースト作曲「オスティナティ」を含む全15曲を録音し、7月には日本及びヨーロッパで発売されます。

今年も3月の25、26日オーケストラワークショップが開催され、学内外の受講者でにぎやかな祭典がくりひろげられます。卒業生の皆様もぜひ参加して下さい。

弦管打コース 教授 森 典子

ピアノコース

前号(第51号)に予定として掲載しました、ウィーン国立音楽大学教授マインハルト・プリンツ先生による講座「ベダルを聴く」Part 2。

ポーランド・カトヴィツェ高等音楽院教授ヨアンナ・ドマンスカ先生による講座「ショパンの様式～ポロネーズとその特徴について」(演奏曲：ポロネーズ嬰へ短調作品44、幻想ポロネーズ変イ長調作品61、ポロネーズ変イ長調作品53)は、ともに講演の中で弾かれた演奏が魅力的で素晴らしく、私たちに感動の余韻を残しました。

後期は演奏会が多く開かれ、ピアノコースの学生は各演奏会への出演を目指し、オーディション・ピアノ実技試験に向け意欲的な練習に取り組みます。午後9時まで開放されている練習室、多くの学生たちの熱気が溢れています。

また今年も、4年ピアノコースの学生全員、アレクサンダー・セメッキー教授(モスクワ国立音楽院でギリリスに師事、多くのリサイタル・コンサートに出演、世界各地でマスタークラスのレッスンを行う)のレッスン受講を計画しました。2月には名古屋芸大の提携校であるフランス、パリ・エコール・ノルマル音楽院での研修に20名(学部ピアノコース・大学院生)が参加、45分2回のレッスン受講。有意義な経験を積みました

- ピアノコース等・コンサート、音楽講座 2011～2012
- 9月22日 マインハルト・プリンツ教授
(ウィーン国立音楽大学) ピアノ公開講座
- 9月29日 ヨアンナ・ドマンスカ教授
(カトヴィツェ高等音楽院) ピアノ公開講座
- 11月10日 第19回ピアノの夕べ ザ・コンサートホール
- 11月17日 第34回定期演奏会 しらかわホール
- 12月15日 山辺絵理ピアノリサイタル
名古屋芸術大学 3号館ホール
- 12月17日 北名古屋市市民芸術劇場
名古屋芸術大学 3号館ホール
- 1月30・31日、2月10日 セメッキー教授
ピアノコース4年生全員レッスン
- 2月14日 Piano Concert in Bourrée
カワイ名古屋コンサートサロン プール
- 2月16日 ピアノのしらべ 第16回春のコンサート
ザ・コンサートホール
- 2月17日 ファルヴァイ・シャンドール教授
(リスト音楽院) レッスン
- 2月19日～26日 パリ・エコール・ノルマル研修
- 3月1・2日 第39回 卒業演奏会 しらかわホール
ピアノコース 教授 田中航造

電子オルガンコース

今年度の電子オルガンコースも活発な活動が出来た1年でした。夏のワークショップも定着した観も有り、本年度は人気実力共業界トップの安藤禎央氏を招き、全曲オリジナル曲のライブを展開し、好評を博しました。

外部からお客様がたくさん本学に足を運んで下さった事も良かったと思います。

学部主催の定期演奏会では、レッスン課題でも取り組んできた“電子音のみによる楽曲演奏”を反映し、当時3年生の小野翔子さんによるドビュッシーのアラベスク第

1番で出演してもらいました。コース主催の定演“アースエコー”でも、オーディションで選ばれた学生らが、クラシック・ポピュラーにわたり、生き生きと演奏してくれました。

大学主催のオペラ公演『こうもり』でも、電子学生6人が大活躍、大きな喝采を浴びました。今年度は2年の疋田詩織がヤマハのプロ・デモンストレーターに採用されるなど、勢いのつくニュースも多かった電子オルガンコースでした。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

《音楽文化創造学科》

ミュージカルコース

高山で恒例となっている「飛騨・童話会議」は、今年で2シーズン目に入りました。第1回目から協力させて頂いているミュージカルコースは4回目の参加となりました。12月に公演されたという今回の作品(「AGAIN」)では、イリュージョンを取り入れた不思議な世界が繰り広げられ、観客の皆様を今までにない幻想の世界へご案内させて頂きました。「飛騨・童話会議」では、高山近辺に在住されている同窓生の皆様にお目にかかれますことも大きな楽しみの一つとなっております。

同じ12月には、北名古屋市市民芸術劇場に参加させて頂きました。ここでは80年代の懐かしい歌を特集したコンサートをやらせて頂きました。出演した学生たちのご両親世代のナンバーは、親子で一緒に歌える歌です。この日は、会場の皆様と学生たちが、世代を超えて、同じ歌を歌わせて頂きました。

この3月には、「アンサンブル～素晴らしき脇役たちの青春」というオリジナル・ミュージカルを上演致しました。日頃、注目されない脇役にスポットライトを当てたミュージカル・コメディでしたが、観客の皆様の暖かい拍手に支えられ、無事、公演を終了することが出来ました。

今年も学生たちが様々なステージに立てることを願いつつ、新年度を迎えさせて頂きます。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

ジャズ&ポップスコース

ジャズ&ポップスコースは、個人練習室、セッション室の充実により学生の自発的な演奏活動が盛んになっています。従来からの個人演奏技術の向上に加え、演奏の感性的な広がりが如実になり、様々なセッションの形態がコースの新たな可能性を広げています。

今年度は、女性ジャズボーカル部門で圧倒的な人気のある、地元出身のケイコ・リー氏、また、数多くのアーティストのライブ、コンサート、そしてレコーディングに活躍するドラムスの藤井摂氏を特別客員教授として、それぞれ2回の特別講座を実施しました。

講座に加えジャズ&ポップスコースの行事として定着したロビーコンサートに、地元の方も多く訪れるようになり楽しんで頂いています。ジャズ&ポップスコースでは、引き続き学内外での演奏活動に力を入れ、演奏の実践の場を増やし活躍の場を広げ、新たな音楽を生み出す環境を向上させて頂きます。

ジャズ&ポップスコース 教授 竹本義明

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース

「無人島に飾られた『モナリザ』の絵」という表現があります。どんなに優れた芸術でも、それを観賞する人がいなければ価値が生まれないという意味の警句です。芸術に携わる者として、人間が作り出した優れた芸術を少しでも多くの人々の手に届けて喜んで貰いたいと切に願っています。そのためには芸術家自身がそれなりの意識を持つことはもちろん、この社会において芸術を効率的に成り立たせるためのシステムを作らなくてはなりません。それが「アートマネジメント」という学問だと言えるでしょう。

本学の「音楽ビジネス・ステージマネジメントコース」では、この「アートマネジメント」の理論に基づき、音楽をビジネスとして成り立たせるための様々な知識と技術を学んでいます。第1学年では、大学の行事のお世話をしながらマネジメントの基礎を学びます。第2学年では、対外的な行事に参加して外の空気を吸って貰います。第3学年では、最も大きな大学の行事「ルネッサンス」において、企画と運営を担当し共同作業としてのマネジメントを学びます。さらに、第4学年では、自らが企画立案した演奏会を自らの手によって自主運営し、実際に収益を上げるという目標を達成して貰います。こうやって学年を経るたびに大きく成長し、卒業するときには「終わり」ではなく「出発だ」とはつきり自覚してもらえるようなコース運営を、私たち教員も目指してきました。そしてこの意図をもっと明確に教育に反映させるために、再来年からは「アートマネジメントコース」へと改称し、広く社会的な使命を担っていることを内外に発信していきたいと思っています。

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース
教授 山田 純

音楽教育コース

今年1年を振り返ると、各学年ともいろいろなことがありました。1年生のフレッシュマンキャンプで訪れた日本大正村(明治・大正時代の音楽文化に触れる)、1年生から4年生までの多くの学生が参加した演奏旅行(飛騨市立神岡中学校での音楽会開催)、3年生のゼミ(新聞に取り上げられた音楽記事の調査)、そしてゼミ研修旅行(徳島、淡路島で人形浄瑠璃を鑑賞する)、4年生が1年間取り組んだ卒業論文など、さまざまな体験を通して実践面と理論面の両面から音楽を学び、学生たちにとって充実した1年間だったのではないかと思います。来年度も引き続き、多くの音楽的機会に恵まれることを願っております。

音楽教育コース 教授 金子敦子

音楽療法コース

2011年度は、フレッシュマン・セミナーの一環として9月5・6日に清里の清泉寮を訪れ、新館ホールにて「ふれあいこんさーと」を実施しました。出演者は本学教員、助手と共に音楽療法コース、音楽ビジネス・ステージマネジメントコースの1年生学生が参加しました。

内容はピアノ、二胡、オカリナ、トランペット、三味線、アコーディオンのソロ演奏と多様に渡りました。また学生たちはトーンチャイムの合奏と手話を交えた合唱を行

い、聴衆の方々から暖かい拍手をいただき、心通わせることができた一日でした。清里でのふれあいコンサートも今年は2回目になり、今後も継続したいと願っております。

音楽療法コース 教授 久保田進子



サウンドメディアコース

2009年9月14日(月)～15日(火) 山梨県 清里 清泉寮において、サウンド・メディアコース1年生を対象に新入生夏期セミナーを行いました。作曲・録音・音響の各分野にわかれ、担当教員とともに、今後どのように勉強していくべきかのディスカッションを行いました。

また、10月14日から17日の4日間にわたって、トーンマイスターとして世界各地で高い評価を得ている、ドイツベルリン在住の本学特別客員教授エバハート・ヒンツ氏の録音実習を、碧南エメラルドホールで行いました。今回はPf Soloの楽曲とPf.とCl.ライブエレクトロニクスの楽曲をレコーディングしました。ヨーロッパの録音の方法を実際に経験することができ、学生にとって非常に貴重な経験となりました。

2月22日(木)熱田文化小劇場で、オーケストラを媒体としたコンサート「ルネッサンス・鼓動」を行いました。本コース学生が作曲した楽曲16曲が、濱津清仁指揮セントラル愛知交響楽団によって演奏されました。たくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

3月11日(日)13:00より愛知芸術劇場小ホールにて、本コース学生が、音楽制作、立体音響を担当し、音楽ビジネスコースが、企画演出を行った、最先端のテクノロジーとヒューマンな発想を融合させたアートイベント、カレイドスコープ2012「Sympathy」を行いました。アコースティック楽器や、エレクトリック楽器とライブエレクトロニクスやプログラミングの融合した作品15曲が披露されました。

また、同日、19:00からは、最先端のテクノロジーを多角的に駆使した海外から招聘作曲家3名と本学教員3名による作品コンサート、カレイドスコープ2012「音とテクノロジーの地平線を求めて」を行いました。IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)に関わってきたピエール・シャルベ氏(フランス)、オリヴァー・シュネラ氏(ドイツ)、そしてCMMAS(メキシコ電子音楽センター)のディレクターであるロドリゴ・シーガル氏(メキシコ)の国際的に活躍する3名の招待作曲家による個性的な作品と、田中範康、岩本渡、伊藤美由紀の3名の本学教員による新作を、アンサンブル・ノマドのメンバーによる演奏と本コースによるテクニカルサポートで日本初演、世界初演致しま

した。エレクトロニクスと生演奏の融合により生まれる新たな音の世界を追究したユニークなコンサートとなりました。

たくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

サウンド・メディアコース 教授 田中範康

作曲・理論コース

作曲理論コースでは、作品を書く作る上でかかせないアカデミックな作曲理論の習熟と、それに裏打ちされた実際の作品創作を中心にカリキュラムが構成されています。特に作品創作については1年次から4年次まで、学年ごとに決められた課題作品を作曲し、提出された作品を演奏家をお願いして、実際に演奏していただく試演会が例年3月に実施されます。また、音楽文化創造学科主催のルネッサンス21、カレイドスコープにも、作曲・理論コース学生の作品が演奏され好評を博しています。

このように、他大学に比べ作品発表の機会に恵まれているのが、本コースの特徴であり、各学生も目的をもちながら作品創作に励んでいます。

作曲・理論コース 教授 田中範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

音楽学部で最も学んでいる学生数の多いのが、総合コースです。

本コースでは、各自が自分の関心と将来を視野に入れながら、音楽学部の全ての科目から自由に科目を選択していきます。つまり、学生一人一人が自分のカリキュラムをもつことができるわけです。卒業時には、専門知識と合わせ、現代の音楽人として必要なグローバルな視点で音楽を思考することのできる人材が育っているといえます。また、カリキュラムを自ら作って履修していくというシステムの中で、充実した就学環境をフォローするために、各専門分野から選出された教員による担任制、運営委員会などを設置しており、他のコースにはない、きめ細かな指導が入学時から行われています。

例年入学式前に、履修方法や学生生活についての詳細説明並びに学生同士の親交のため1泊2日の合宿を実施しています。本年も豊橋シーリゾートで実施しました。この合宿には、総合コースの在生も加わり、新入生に学生目線からのアドバイスをしてもらっています。また、演奏学科・音楽文化創造学科各コースのフレッシュマンセミナーにも殆どの学生が参加しています。

さら各学年年2回の面談を行い、履修状況、将来について、その他学生生活全般の充実度などの3点を中心に、きめ細かい話し合いの場を設定しています。日常的な履修や学生生活のアドバイスのために、年間を通じて、専属の契約助手、職員1名を配置することで、学生相談の窓口になっています。問題があれば、迅速に教員と連携をとり問題を解決しています。

このように、恵まれた環境の中で、総合コース学生は各専門コース主催のコンサート、イベントにも積極的に参加し、充実した学生生活を送っています。

音楽総合コース運営委員会 委員長 田中範康

美術学部

洋画コースOBの活躍・第二弾!

洋画コースでは数年前から紙媒体のニュース情報『洋画2コース&大学院同時代表現研究<洋画>+現代アートnews』にて、卒業後の洋画コースOB達の国内外での動向を取材・調査をし、アーティストとしてパブリックな活躍に値するOB関連の展覧会情報、他にも作家以外の立場で社会やアート界にて活躍をしている卒業生にスポットを当てて写真入りで紹介しています。

以下が最近のニュースです。

洋画2コース教授 大崎正裕

名古屋芸術大学 洋画2コース発

洋② & 同時代表現研究 + 現代アートnews Contemporary Art

1: 洋画コース卒業生・佐藤 翠氏が

東京オペラシティアートギャラリーで個展 「project N 48 佐藤翠 SATO Midori」!

会期: 2012年1月14日(土)~3月25日(日)
会場: 東京オペラシティアートギャラリー



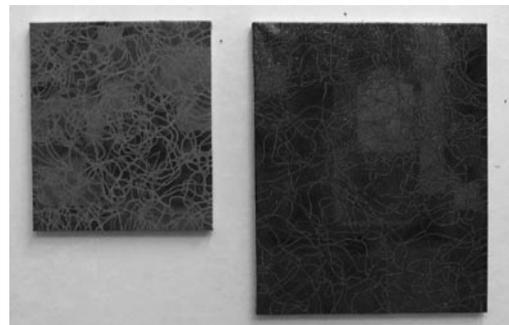
■プロジェクトN: 故難波田龍起氏の意志を受け継ぎ、財団内の選考委員会で選ばれた国内の若手作家の作品紹介を行うため、シリーズ「プロジェクトN」を4階のコリドールで開催しています。

■佐藤翠: 名古屋出身 / 名古屋芸術大学洋画コース卒業 / 東京造形大学大学院修了 / アートアワードトーキョー 2007 展出品 (JR 東京駅丸の内行幸地下ギャラリー) / 個展 (トーキョーワンダーサイト本郷) 他。

2: 卒業生・鬼頭 健吾氏が国立国際美術館(大阪)企画展 「世界制作の方法」 に出品!

会期: 2011年10月4日(火)~12月11日(日)
会場: 国立国際美術館

出品作家: エキソニモ、パラモデル、伊藤存+青木陵子、クワクポリョウタ、木藤純子、鬼頭健吾、金氏徹平、半田真規、大西康明



■鬼頭健吾: 松蔭高校卒業(名古屋市) / 名古屋芸術大学洋画コース2研卒 / 京都市立芸術大学大学院研究科絵画専攻油画修了 / 平成20年度五島記念文化賞美術新人賞受賞し、ニューヨークにて研究。現在、ベルリンに滞在研究。

3: 大学院同時代表現研究<洋画>修了・村田 仁氏(詩人)がベルリンで発表!

国際デザインセンター江坂恵里子氏企画にて山田亘氏(写真家)と2011年6月に共演!



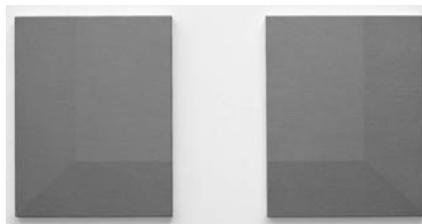
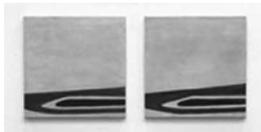
2011年6月1日~6月5日

「DMY INTERNATIONAL DESIGN FESTIVAL BERLIN 2011」(ドイツ、ベルリン)

■村田仁: 名古屋芸術大学洋画コース卒業 / 名古屋芸術大学大学院同時代表現研究修了 / 開館5周年記念展「愛についての100の物語」金沢21世紀美術館、「子どもアート in みえ」三重県美術館、他、活動多数。

4: 大学院同時代表現研究 < 洋画 > 修了・秋吉 風人氏が世界の 100 ニュー アーティストに選出され 洋書カタログにて紹介される! 秋吉風人氏以外の日本人アーティストは 富谷悦子 (Etsuko Fukaya)、金氏徹平 (Teppein Kaneuji)、河井美咲 (Misaki Kawai) の各氏。

Despite moments of clarity, there is no ism in this book.
100 New Artists. Francesca Gavin (著)
published in 2011 by Laurence King publishing Ltd



- Francesca Gavin, Ms.: ロンドンベースのフリーランスライター (Blueprint, i-D, Art Review, The Times, V&A and etc. の常連) として活躍。ビジュアル系の雑誌の編集にも多数参加。
- 秋吉風人: 名古屋芸術大学洋画 2 研卒業、名古屋芸術大学大学院同時代表現研究修了、「絵画の庭」展出品 (国立国際美術館)、あいちトリエンナーレ (愛知芸術文化センター) で作品発表。平成 22 年度「財団法人吉野石膏美術振興財団在外研修助成」と平成 23 年度「文化庁新進芸術家海外研修制度助成により 2011 年 9 月に 2 年間渡独。

5: 本学大学院同時代表現研究 < 洋画 > 修了・禿鷹 墳上氏の作品が女木島に永久設置!



瀬戸内国際芸術祭 2010 (女木島会場) に出品したアーティスト・禿鷹墳上氏の立体作品
「二十世紀の回想 アジアの現代とはなにか、我々はどこへ向かうのだろうか」(ブロンズ、ステンレス、布ほか) が、永久展示されることになった。

- 瀬戸内国際芸術祭 2010: 瀬戸内海に浮かぶ七つの島+高松で行われる 3 年毎の開催予定の国際芸術祭。
- 禿鷹墳上: 名古屋芸術大学大学院同時代表現研究修了。東京藝術大学大学院先端芸術表現博士課程在籍。

6: 世界最大のアートフェア Art 42 Basel に TOMIO KOYAMA GALLERY から卒業生・名知 聡子氏出品!



- Art Basel (バーゼル・アートフェア): スイス・バーゼルで開催される現代アートフェア。出展ギャラリーも厳しく審査されることで有名。2011 年は 6/14 が内覧会、6/15 - 19 が一般公開。
- 名知聡子: 名古屋芸術大学洋画コース 2 研卒業 / トーキョーオペラシティーギャラリーや熊本現代美術館、上野の森美術館「VOCA2010」展などで作品発表。小山登美夫ギャラリー (東京) 取扱い作家。現在、洋画 2 コース講師。

7: 横浜トリエンナーレ関連企画事業に「artist run space i/o (アイ・オー)」が参加出品。 『新ナゴヤ島 N-mark presents これがナゴヤのアート生態系』

会期: 2011 年 9/3 (土) - 11/6 (日) 時間: 午前 11 時 30 分 - 午後 7 時 (金曜の夜は午後 9 時まで) 休館日: 9 月の木曜日 + 10 月 13 日 (木)、10 月 27 日 (木)
参加メンバー: 小林真衣、北山美那子、1980 円 (イチキュッパ)、クロノズ、カトウトクハル、石田達郎 a.k.a ジェット達、artist run space i/o (アイ・オー)、矢島与萌、学食二階次元、山下拓也
会場: 新港ピア 新・港村 (横浜市中区新港 2-5)
BankART Life のチケット (新・港村/バスポート) 料金: 一般当日 300 円 / 大学生当日 250 円 / 高校生当日 200 円 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者 1 名は無料
助成: ACY 横浜における創造的芸術活動助成事業 先駆的芸術文化活動部門 特別協力: BankART

- 「i/o」(アイ・オー): インプット/アウトプットの略機。内に取込んだものを留める事なく、再び外に発信するという意味が込められている。元医療器具工場を改装し、主に名古屋芸術大学の卒業生によって自主運営されている共同スタジオです。2010 年 11 月設立。
〒481-0038 愛知県北名古屋市徳重小崎 40 E-mail: art_i_o@yahoo.co.jp



< 作品写真などが毎号で重複するのは著作権が取扱いギャラリーや撮影写真家に移るためです >

レイアウト: Mizuki Hatakeyama 取材 / 編集: Masahiro Osaki

デザイン学部

2012年2月2日、冬型の気圧配置が続いて、強い寒気が流れ込んでいます。久しぶりに15cm程の積雪が記録されました。キャンパス内の落葉樹が、秋に随分と刈り込まれ、一層の冬枯れを感じる今日この頃です。

大学は、後期15週の授業が終了し、補講・集中講義・試験期間を経て、学生たちの姿も徐々にまばらになってきました。1年生は、年間の基礎教育(ファンデーション)を終えて、レビュー時の展示発表(プレゼンテーション)を経験しました。そこでの教員スタッフとの面談(インタビュー)を踏まえ、次年度のより高度な専門教育に向け、各々が準備します。各人が次年度所属するブロック・コースを選択して、デザインの専門教育へ入ってきます。2年生は、ブロック・コースの専門基礎教育を終え、レビューでの展示発表(プレゼンテーション)を踏まえ、次年度のより高度な専門教育に向けて、各々が準備します。3年生は、様々な種類の課題に取り組んだ一年を終えて、学部最終学年を迎えます。各々の将来を思い描きながら、多くの学生が自らを他者に紹介する為、ポートフォリオの制作を始めています。4年生は、ようやく卒業制作が終盤となり、学外での展示発表に向けて目下準備中、最終段階になっています。年が明けてからの大学は、学生も教職員も、年度の集約と次年度に向けての準備で忙しい状態です。

「大学9月入学」の話題が、各種メディアで取り上げられました。現在のシステムの中ではこれから年度末3月にかけて、入学試験実施のスケジュールが連続します。

ここでは、今年度(2011年)後半に、本学デザイン学部が学内外に向けて実施した、主な講座やイベント等を中心に、お知らせします。

・8月19日～27日/名古屋芸術大学卒業生と大学院生によるメディアアートの特別展示会「Invisibleloophole」が開催されました。



・9月16日～18日/尾張名古屋の職人展にデザイン学部学生の帽子作品が展示されました。



・9月18日～10月2日/デザイン学部MCDコースの学生が制作した本の展示会「ギャラリー&ブックショップ」が開催されました。



・9月20日/2011年度「シャチハタ×名古屋芸術大学」のワークショップがスタートしました。



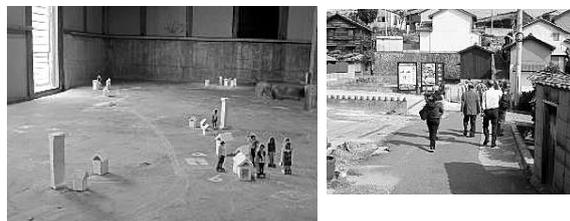
・9月25日/オープンキャンパス(オータム編)が行われました。



・10月4日/2011年度産学連携ワークショップ「シャチハタ×名古屋芸術大学」が行われました。



・10月8日～16日/現代アートとデザインの展示会 常滑フィールド・トリップ2011が行われました。



・10月23日／「JAGDA愛知展 at 名古屋芸術大学」が開催されました。



・11月1日／2011年度産学連携ワークショップ「シャチハタ×名古屋芸術大学」作品のプレゼンテーションが、シャチハタ本社にて行われました。



・11月3日／インダストリアルデザインコース3年生による産学共同プロジェクトが開催されました。



・11月5日～13日／旧加藤邸アートプロジェクト2011「<記憶の庭で遊ぶ>」が開催されました。



・11月15日／名古屋芸術大学×シャチハタ株式会社 産学連携ワークショップ、ヴィジュアルデザインコース学生作品の講評会と表彰式が行われました。



・11月15日／gredecana テキスタイルデザイナー梶原加奈子氏の特別講義が行われました。



・2012年1月14日、15日・21日、22日／デザイン学部、第29回レビュー展が、一般公開されました。



・1月24日／インダストリアルデザインコース3年生による産学共同プロジェクト優秀者のプレゼンテーションと表彰式が行われました。



【第39回】

名古屋芸術大学卒業制作展 2/21(火)～2/26(日)

① 愛知県美術館ギャラリー【愛知芸術文化センター8階】
10:00～18:00(金曜日は20:00、最終日は17:00まで)
【美術学部】美術学科(日本画・洋画・美術文化) 【デザイン学部】デザイン学科
【大学院デザイン研究科】

② 名古屋市民ギャラリー矢田
9:30～19:00(最終日は17:00まで)
【美術学部】美術学科(彫塑・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画)
【デザイン学部】デザイン学科

③ 名古屋芸術大学 西キャンパス【アート&デザインセンター】
10:00～18:00(最終日は17:00まで)
【美術学部】美術学科(洋画) 【デザイン学部】デザイン学科

④ 映像作品上映会【愛知芸術文化センター12階 アートスペースD】
2/25(土)14:00～20:00
2/26(日)10:00～17:00

【第16回】

名古屋芸術大学大学院修了制作展 2/28(火)～3/4(日)

⑤ 名古屋市民ギャラリー矢田
9:30～19:00(最終日は17:00まで) 【美術研究科・デザイン研究科】

卒業制作展記念講演会(入場無料・要整理券)
2/25(土)14:00～16:00

⑥ 愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
対談：絹谷幸二氏 × 仲居宏二氏 「アートの味付け」

※尚、項目ごとのより詳しい内容につきましては、名古屋芸術大学ホームページ、デザイン学部、NUA ACTIVITYREPORT/トピックをご覧ください。

※追記/年度の最後を飾って、学部の卒業制作と大学院の修了制作の展示会が、それぞれに下記のように開催されます。入学時からの成長の結果であり、将来への通過点でもあります。一人でも多くの方々が本展に足を運ばれますことを願っております。

※追記/上記ご案内が、この原稿の印刷・発行予定からすると、展示会終了後になるかもしれません。ご容赦くださいますよう。機会がございましたらご覧いただいた展示会の感想や、お気づきの事柄等をお聞かせ下さい。次年度に向けての課題の一つになります。

デザイン学部長 落合紀文

人間発達学部

訃報

まず初めに悲しいお知らせをしなければなりません。去る10月13日に加藤純子教授(表現学)が、12月9日には田邊光子名誉教授(幼児・初等教育学、2011年3月定年退職)がご逝去されました。お二方とも、短期大学時代から幼児教育の分野で幾多の人材を育ててこられた本学部の顔ともいべき方々でありました。両先生のご業績に敬意を表するとともにご冥福をお祈りしたいと思います。

学部行事

(1)文化創造セミナー／12月10日、NPO法人富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊理事長の早川たかし氏を講師にお招きし、「大人が遊べば子どもも元気！」をテーマに、「遊び」とコミュニケーションについて学びました。

氏のユーモアあふれるお話と「皿回し」やイタズラの実習に参加する中で、『児童虐待やいじめなどの子どもを取り巻く諸問題の背景には子どもたちから遊びを無くしてしまったことがある。習い事や塾などを子どもに強要するのではなく、遊びを通して問題解決を図りたい。』という氏の「イタズラ村・子ども遊ばせ隊」設立の趣旨を、学生たちは知らず識らずのうちに、受け取ったのではないかと思います。



(2)就職活動報告会／1月19日、23年度の就職活動種別報告会を行いました。公立小学校、公立幼稚園・保育園、私立幼稚園、私立保育園、福祉施設、公務員、企業の7つの部会に分かれて、首尾良く内定を手に入れた4年生から、その体験記を聴きました。2・3年生が対象でしたが、質問も活発になされ、話す側、聴く側双方の熱心が印象に残りました。

(3)卒論発表会／人間発達学部では、卒論が卒業要件とはなっておらず、その取り扱いは各ゼミに任されています。しかし、教員の間で討論を重ねる中で、その成果を発表し、相互に検討しあうことが4年生や下級生の勉学への取り組みを高めることに繋がるであろうとの見解で一致しました。このため、今年度は2月13日に、(ゼミ内発表会を行うことを決めていた少数のゼミを除いて)合同の卒論発表会を行いました。

来年度からは、全ゼミの参加による発表会にしていきたいと考えています。

(4)春を呼ぶ芸術フェスティバル／3月3日には、来年度入学予定者にも参加を呼びかけて、標記のフェスティ

バルを開催しました。このフェスティバルは、学生たちに、自発性や自らの資質に対する自信を高めてもらうために昨年度から実施してきたものです。

本学部の学生たちは、様々な資質・能力を持って入学してきています。課外活動等での研鑽の成果を発表する中で、それらの資質・能力を再確認し、今後の大学生活の充実に努めて欲しいと思います。

学生の就職状況

2月20日の時点での進路が内定した学生は122人(75.3%)です。その内訳は、公立小学校7名(正規採用3名、常勤講師4名)、保育園50名(公立9名、私立41名)、幼稚園35名(私立35名)、一般企業8名、大学院等進学2名、その他です。少しく就職内定率が低いのですが、例年発表の遅い公立小学校講師や保育園等の採用を待っている者がいますので、最終的には大多数の者が内定を得るものと思われれます。

教員の意識改革の必要性

1月9日、休日を押し子ども発達学科では、「学生の現状をどのように把握し、どのような学生を育てるのか」についての集中討議を行いました。

9時～17時の長時間に亘る熱心な討議が行われたのですが、結論的には、学生の修学上の諸問題の根源を学生の資質に求めるのではなく、教員のあり方や意識の変革に求めなければならない、という認識で一致しました。

これまでに述べてきました学部行事等は、全て学生の意欲を高め、教育効果を上げるための「仕掛け」といえます。むろん学生諸君の一層の奮起と努力を促したいとは思いますが、学部として、教員として何をどのように行えばよいのかを今後とも追い求めていきたいと思えます。

教員の異動

本年度末をもって、三輪弘美教授(声楽)が定年により、加藤暢夫准教授(福祉学)がご自身の都合により退職されます。お二人とも本学部の発展に尽くされ、学生からの信頼も厚い先生でしたので、ご定年・ご都合とはいえ、極めて残念なことです。幸いお二人とも非常勤講師として来年度も教鞭をお取りいただけますが…。

なお、現段階ではお名前を記す訳にはいきませんが、故加藤純子先生の後任に幼児教育・表現学系の女性の准教授が、小島東洋治先生の定年退職後空席でありました図画工作担当に男性の准教授が着任される予定です。

来年度は、わずかではありますが、教員の若返りが果たされます。人間発達学部創設の理念を守りながら、新しい風が吹き込まれることを期待したいと思います。

人間発達学部長 佐藤勝利

皆さん受賞おめでとうございます!

2011年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

音楽学部

コンクール名	順位	楽器など	学年・卒業年度(期)	氏名
第13回九州音楽コンクール	最優秀賞	ハーブ	36期	高田 知子
2011岐阜国際音楽コンクール ピアノ部門	文化人特別賞	ピアノ	3年	増田 真美
第3回岐阜国際音楽祭コンクール 打楽器部門 大学の部	審査員特別賞	打楽器	4年	臼井佑美香
第12回大阪国際音楽コンクール 木管部門Age-U	エスポワール賞	クラリネット	4年	松本 有可
第3回岐阜国際音楽祭コンクール 声楽部門 専門 一般の部	第3位	声楽	24期 声楽	林 寛子
第5回横浜国際音楽コンクール 声楽部門 一般の部	第4位	声楽	大学院卒業生	崔 利先
第2回クオリア音楽フェスティバル ピアノ部門 一般の部	第1位	ピアノ	37期 ピアノ	浅野 紋加
第2回クオリア音楽フェスティバル ピアノ部門 一般の部	第2位	ピアノ	大学院1年	山本多恵佳
第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 一般の部	第2位			
第3回岐阜国際音楽祭コンクール ピアノ部門 専門 大学・一般の部	第2位審査員特別賞文化人特別賞			
第2回クオリア音楽フェスティバル ピアノ部門 大学の部	第3位	ピアノ	3年	増岡 真実
第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部	F.Liszt賞	ピアノ	3年	福田 晃子
第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部	Veronique BONNECAZE賞	ピアノ	3年	岩田 晃
第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 一般の部	R.Schumann賞	ピアノ	大学院1年	小島 怜
第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 一般の部	ロシア音楽賞	ピアノ	9期 ピアノ	野川賀代子
第21回日本クラシック音楽コンクール全国大会 フルート部門 一般女子の部	第2位	フルート	研究生	長谷川綾香
第3回岐阜国際音楽祭コンクール 管楽器部門 大学・一般の部	第2位	ファゴット	大学院2年	加藤 佑
第5回横浜国際音楽コンクール 管楽器部門 大学の部	第4位	ユーフォニアム	1年	北 怜恵

訂正:第50号でご紹介した「第4回東海ピアノ・オーディション カワイ出版賞」受賞の奥村真由さんはピアノでの受賞でした。

美術学部

展覧会	賞	学科・コース	氏名
中部新作絵画展	新人賞	洋画2コース3年	山口 蒼平
第43回 日展	日本画 入選	日本画 卒業	梅村 愛
		日本画 卒業	岡本 昌子
		日本画 卒業	落合 初美
		日本画 卒業	金子 絵理
		日本画 卒業	末松 芳野
		日本画 卒業	谷野 剛史
		日本画 卒業	戸田 淳也
		日本画 卒業	服部 泰一
		日本画 卒業	林 真
		日本画 卒業	福岡 正臣
		日本画 卒業	水野加奈子
		日本画 卒業	宮原 剛

デザイン学部

イベント名	順位	コース名	学年・卒業年度(期)	氏名
Red Bull Racing	新人賞	ライフスタイルデザインコース	4年	前原 圭介
第6回ルネッサンス展	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	4年	大口 尚世
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	4年	杉本 翔
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	3年	近藤 杏奈
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	3年	川崎 和美
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	2年	佐藤 義之
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	2年	杉田 一紗
	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	41期	柴田 光穂
アーツ・チャレンジ2012	入選	メタル&ジュエリーデザインコース	38期	土田 泰子

(※受賞等の情報は芸術文化交流室までお寄せ下さい。
 ※上記以外にも受賞された方がいらっしゃると思われませんがご了承ください。)

2011年度 デザイン学部 「Review」展

第29回目のレヴュー展が2012年1月14・15日、21・22日に開催されました。今年もレヴュー展のポスターにヴィジュアルデザインコースが取り組み、3年生の鎌田あかねさんのポスターが選ばれました。今まで歩んできた足跡をモチーフとし、外へ広がりながら大きく成長する過程を表現したデザインとなっています。

また、AO入試、推薦入試の合格者対象の入学前プログラムを実施し、4月から名古屋芸術大学の一員となる49名の高校生がレヴュー展を見学してくれました。

震災の影響が漂う中、2011年度の新学期を迎えましたが、この1年間は、デザイン分野でも大きなターニングポイントとなる年となりました。変貌



していく社会の中、デザインの意義、社会とのかかわり、社会に貢献できることは何か、などデザインに何ができるかということを考え直す機会になったことは間違いないように思えます。今後学生自身が自ら現実と向かい合い、様々な解決方法を考えていく力をつけて成長していくことを期待したいと思います。

最後になりますが、本展にお越しいただきました卒業生、保護者、後援会の方々にお礼を申し上げます。

デザイン学部デザイン学科 竹内 創

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		西キャンパス (美術学部・デザイン学部) 0568-24-0325 (代)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		0568-24-0359 (直通)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)	
		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

私 が 就職内定 を も ら う ま で

「教員」であり「音楽家」でもある

音楽学部演奏学科 ピアノ選択コース
4年 芝田 愛

私は小・中学生の時、音楽の授業が大好きでした。幼少の頃からピアノを始め、人前でも物怖じせず弾けるようになり、次第に「ピアニストになってコンチェルトを弾きたい!」と思うようになりました。その志は音楽科のある高校に進学し、大学は演奏会が多数開催される大学を選びました。

大学に入学して、私は「コンチェルトを弾きたい!」という夢を叶える為、時間があればピアノと向き合ってきました。そして、コンチェルトに出演することができました。公演の演奏を聴かれた先生方が涙を流しながら、「教え子が頑張っている姿を見て、初めて教師になって良かったと思うことができた。ありがとう!」と私に語られたことは、生涯忘れることのできない一言になりました。私は入学当初より卒業後の進路は、伴奏などの演奏活動をはじめ非常勤講師を務めたいと考えていました。教育職員は選択肢の一つでした。演奏会での先生の一言が「教師という仕事」に突き進むきっかけとなりました。2年生の夏季休業期間中に大学で行われた教員採用試験対策講座を受講し、3年生で教育実習に向けて準備を始めました。授業で使う小道具を作製し、音楽の教科書に掲載されている全ての曲の分析や歌詞の意味を調べました。

教育実習中に、大学で培った教育研究の成果は生徒たちの学習理解を高めることができ、授業の始めと終わりの合唱では全然違っており、「50分でこんなに上達するんだ!」と実感でき、さらに「音楽的な合唱を歌わせた

い。」という思いになりました。授業以外でも生徒と触れ合う時間を多くもつことで、生徒たちを理解できるようになり、「教員になりたい!」と強く思うようになりました。教育実習が終了し、教員採用試験まで1ヶ月ほどになり、毎日8時間以上教員採用試験に向けての勉強に取り組みました。講座の教材



を活用し過去の問題を主に勉強しました。主要5教科だけでなく音楽の専門、教職教養など広範囲であり、挫折しそうな時期もありましたが、一緒に頑張っている仲間の励ましもあり、最後まで諦めずに続けることができました。2次試験では実技試験・面接と小論文であり、この分野は自信を持って挑むことができました。

以上のことから私は入学当初はピアノに関わる仕事に就くことを考えていましたが、学生生活のなかで演奏会に出演し、学生・実習先の教員や生徒と多くの関係者との「出会い」がありました。そして、大好きなピアノとの「出会い」が教員への道へと誘導してくれたように感じています。今は4月から教壇に立てる「喜び」で満ち溢れています。これからも生徒指導や校務などに関しては徐々に勉強を重ねていきます。そして、音楽に対しては誰にも負けない熱い気持ちを維持し、教員であると同時に1人の“音楽家”として《音を楽しむ喜び》を私の歌やピアノを通して生徒に教え伝えていきたいと思います!

(岐阜県中学校教員 内定)

幼稚園教諭に向けて、走った4年間「継続は力なり!!」



人間発達学部 子ども発達学科
4年 若原有 騎

私は、子どもに限らず高齢者も含めて、人と関わるのが好きです。人を好きになることによって、人との「出会い」があり、その出会いにより、私はその人たちから生まれ成長させていただいたと感謝しています。

将来、私は「人と関わる仕事に就き、誰かの役に立ちたい」との思いから、日本福祉大学付属高校に通いました。高校生活では、子どもとの関わりを持つ授業があり、その中で多くの子どもたちと出会いがありました。この

経験で、私は子ども達の「無邪気さ」「純粋さ」に心を打たれ、「保育」の仕事に就きたく、幼稚園教諭への道を選びました。大学に入学して、学力的な知識の習得だけでなく、実際の現場で実習の経験をしたく「尾張中部福祉の杜」「愛知県児童総合センター」で勤めました。障害児を対象とした支援や子ども達とその保護者を対象にした支援の実践を重ねました。少しでも将来の仕事に役立つのではないかとこの思いで、支援スタッフの仕事を続けてきました。3年生の一年間、私は地元のドッチボールのクラブチームから、幼稚園の子どもたちにスポーツコーチとしての依頼がありました。そこでは保育とは異なった子どもとの「出会い」があり、とても良い経験ができました。結果として、大学の講義や実習だけでは学ぶこと

のできない、多くの実体験をすることができました。そして、4年生になり、就職活動が始まったなかで、ゼミの担当教員・学生支援課の職員の方から多岐にわたる支援を受け、2回目の採用試験を経て、幼稚園教諭の職に就くことができました。

今回、念願の幼稚園教諭に就けたとはいえ、スタートラインに立てたところであり、これから努力と研究を重ね、子どもたちや保護者、幼稚園関係者の方から信頼される教諭になりたいと思います。

(学校法人名古屋文化学園三好文化幼稚園 内定)

就職活動について



美術学部 美術学科
洋画コース
4年 青山智子

私が就職を意識し始めたのは、2年の終わりに大学での就職ガイダンスに参加してからです。そこから徐々に就職サイトに登録するなどし、大学3年の秋から合同説明会などに参加し始めました。私は説明会にはよく出向きましたが、履歴書の添削、ポートフォリオの作成、面接の練習といったアピールの準備をあまりしていませんでした。会社に対して自分を発信することが億劫で、ついつい先延ばしにしていました。

3年の冬から4年の春にかけて、会社に応募し面接などの試験を受けましたが、ことごとく準備が足りないこ

とを痛感しました。とにかく何か動かなければという気持ちばかり先走ってしまい、応募しては落ちを繰り返しました。特に面接に苦手意識があったため、自信が持てないまま試験に臨んでいました。思えばガイダンスや説明会に参加、または会社訪問をし試験を受けるという一通りの活動はしていましたが、その行動に自分の気持ちがしっかりと伴っていなかったと感じます。

4年の9月に支援課の方に教えていただいたイベントで知った会社に興味を持ち、応募しました。仕事内容で私が大学で学んできたことが活かせる部分があると感じたため、今までより自信を持って面接に臨めました。結果、内定をいただくことができました。

就職活動中に受けた様々なアドバイスの中で、一番印象に残ったのが「笑顔でいる」ということです。自分をアピールしなければとか、マナーを覚え知識を持たなければ、と焦っていましたが、それよりも肩の力を抜いてよりよい関係を築こうとすることが大切なのだと感じました。就職活動中に学んだことが多くあり、社会に出る前に動いてみることは有意義であったと思います。

(岡宗額縁工業株式会社 内定)

就活のチャンス

デザイン学部 デザイン学科
4年 辻 亜弓

私は当初、ゲーム業界で企画・宣伝を行う仕事に就きたいと考えていましたが、製菓の企画・宣伝にも興味があった為、両方を視野に入れて2月から就職活動をしていました。マイナビなどで企業を調べ、可能ならエントリーシートも送りました。最初の企業は書類審査は通ったものの、残念ながらwebテストで不採用になってしまい、その後にエントリーした2つの企業も書類審査で落ちてしまいました。それからは早くもやる気を無くしてしまい、5月以降はプレ卒制で忙しくなったため、それを理由にしてなかなか就職活動に真剣に取り組もうとしなくなりました。そして、夏休み直前になっても、面接試験にすら進んでいない状況に焦る一方で、そのうち「私が目指している職種は、本当は自分自身に合っていないのではないかと」と悩むようになり、時間だけが過ぎていきました。

しかし、8月に入って間もなく、先生から洋菓子の販売企業の企画部から求人募集の話があることを聞きました。私の卒業制作の内容と似ていることから、先生がわざわざ電話をしてくてくださったのです。この際、向

き不向きは後回しにして、このチャンスを生かそうと思い、早速ポートフォリオと履歴書を学生支援課を通して企業に送りました。9月に学生課の方から、私を含め5人が選考に残っていること、都合の良い日に面接をしたと会社側が伝えてきたことを聞いたときは、信じられない気持ちでした。

けれど、私は面接を受けるのは初めてな上、自分のどこをアピールして良いのかも分からず、不安でいっぱいでした。家族や友人に相談して、面接を受ける心構えや、とにかく肩肘張らずに素直であることを教えてもらい、今自分にできることを精一杯アピールすることにしました。

面接では聞かれたことにだけ素直に答え、今の自分の考え方を正直に話し、最後に筆記試験を受けて終わりました。その結果、無事内定を頂くことができました。

私が就職活動に取り組んだ期間はとても短いものでしたが、改めて自分を見つめ直す貴重な時間となりました。このような機会を得ることができたのも、先生の御厚意、家族や友人の助けがあったおかげです。そして、先生が連絡をしてくれなければ、私は内定先の企業を知ることすらなかったと思うと、就職は縁の巡り合わせでもあるのだと感じずにはいられません。

(株式会社プレジィール 内定)

親の想い

来春巣立つ息子に想う

デザイン学部 デザイン学科
3年 父 酒井哲朗

オムツの頃から、どこへ行くにも一緒、何をすることも一緒の父と息子。電車を見たがれば、プラットホームに半日だっていた。プラレールで部屋じゅうをレールだらけにした。ミニ四駆が流行れば、段ボールで自設コースまで作った。駄菓子屋にも、夏のプールにも、タンポポの調査にも、いつも一緒に出かけた。仕事の休みの日、父ひとりで何かをした、という記憶がないほど。

父の息子に対する想いの分量は、ずっと変わらない。変わったのは、息子の側。寂しいが、これが成長したということ。小学校高学年頃から次第に築いていった自分の世界に、もうお父さんはいらぬ。一緒に何かすることが減って、それでも父にできること。見守ること。

中学の頃には、やりたいことが少しずつ見え始めた。高校は迷わず、デザイン関係。名前に「デザイン」と付く学科をいくつか調べ、希望の高校へ。そして楽しい高校生活。決して近いとはいえない距離を、3年間、雨の日も雪の日も、ほとんど休むことなく自転車で通った。息子ながら、すごい。

高校に入って、進むべき道が更にはっきりと。複数の大学を比較検討し、名芸に。最初の2年間は名古屋の自宅から通学。3年生の1年間は、親は1円も出さないという条件で、念願のアパート暮らし。貯金とアルバイトだけでやり通した。これも、立派。

現在までの息子の人生は、まずまず順調。SFで言うパラレルワールドがあるとすれば、この現実世界の息子は、異世界の息子たちより、ずっと上手に通過点をクリアしてきたんじゃないかな。

ここまでは、自分の好き嫌いだけで歩いてこられた。でもね、「社会に出ると、そんなわけにはいかないんだよ。」「わかってるって。」本当にわかってる？

まだ21歳。これからの人生を思うと、眩暈がするほどに長い。親としては、堅実に、と思う。(母はもっとそう思ってる。)同時に、一度きりの人生、とも思う。好きを伝えればいい、揺れる思いがあるのなら、大いに揺れる、って。(母はそう思っていない。たぶん。)いずれにせよ、親は見守る。それだけ。10年後、20年後の息子が、その時点での自分自身に納得できていればいい。来春、そんな巣立ちをしてほしい、そう願う。

親の想い(心)子知らず

人間発達学部 子ども発達学科
2年 母 木村充代

親という漢字は、3つの字からなっています。私はこの漢字を子供が習う時には「立・木・見」立って木の陰から子供の様子を見てるのが親なんだよって!

親の想いはお腹に居る、まだ性別も分からない頃からいろいろ抱きます。五体満足に生まれ本当に有難うと、我が子を見ていて何時も想います、親の責任を感じて、いろんな面で、成長していく息子に期待をしてしまうものです。

子供の頃はまだ、これから沢山の可能性の中で自分を探せると思い、一人目の子供とあって、習い事を多種通わせたりもしました。皆と同じ様に出来ない、何故?と見て見たり、成長に伴い色々な現実が親にも子供にも見えて来るのです。

子供の幸せを考えた時、つまずいたり、失敗した時には守ってあげたいと思います。親が子供に思う気持ちは、子供に幸せになって欲しいから、親が居なくとも、何一つ苦勞のない様、自分の将来に目的を持ちしつかり今を生き、未来を創って欲しいと思います。

ある講演会のテーマ「子供のキャリアを育む」キャリアの意味:自分が生きて自立していく(生きる教育)生きる事何?」「やるべき事は何?」「やりたい事は何?」この様なテーマでお話が聞けました。参考にしなければ少し記載いたします。

いろんな体験/経験が少ないと比較をしないので、自分で成長出来ない。何とか成る、プライドが高く自信がない、社会性コミュニケーション当り前な事が出来なく失敗を避ける。そんな話を聞くと「親の思い期待されている自分(息子)」「今の自分(息子)」現実と掛離れている様に思います。

自分で将来就きたい職種を考えこの大学に入学し、学び順調に単位も取れると思いきや周りに心配(迷惑)を掛けてばかり。最近になり息子に落第するようなら辞めなさい、無駄な授業料は払えませんが。

後二年、貴方はこの大学でどう自分の将来の為に学んで行きますか?

子の想い

私の学生生活

音楽学部 演奏学科
4年 臼井佑美香

私がこの大学に入学する前、もし誰かに大学生活を一言で表すとしたら何ですか？と聞かれていたら「遊べる4年間」と答えていたと思います。

でもその考えは、この大学で初めて合奏の授業を受けた瞬間に変わりました。

私は中学、高校の時かなり天狗で、狭い世界でいつも自信に満ち溢れながら音楽と関わっていました。そんな私が大学で輝けるはずもなく、同じ学年の仲間の演奏を聴いた瞬間恥ずかしくなりました。それからというもの、私は大嫌いだった練習を毎日朝から夜まで大学で続けるようになりました。

この大学は、演奏する機会がたくさんあるので、自分の曲の練習だけでなく時には同時に何曲も短期間で仕上げなければならない時が多々ありました。もちろん他の皆が遊んでいるときも自分達は練習練習で、つらく苦しい時もありましたが、自分がこの大学を選んだ事は、全く後悔していません。

きっと、他の大学の生徒よりとても大きな達成感を何度も味わえたと、私は胸を張って言えるからです。例えどんなに練習が辛くとも、その辛さは自分の演奏を聴いてくださった方々からの拍手によりほぼ全て消えてしまいます。

さらに音楽には答えがないので、演奏会や試験を終えるたび、また次の課題に向かって走り出す事ができます。

仲間からの刺激を受けながら絶えず成長していく自分を肌で感じる事の出来る環境で4年間有意義な時間を過ごせて私はとても幸せでした。

そして、この有意義な時間過ごせる環境を作ってくださった大学の先生方や友達、先輩や後輩、そしてお父さんお母さん本当に4年間ありがとうございました。

自分の将来のために

人間発達学部 子ども発達学科
2年 角前百紀乃

子どもが大好きで、子どもに携わる仕事がしたいという想いから、小学校教諭、保育士、幼稚園教諭の資格がとれる名古屋芸大への入学を決め、もうすぐ2年が経とうとしています。

保育論、心理学、発達学等を学び、ただ単に子どもが好きだけでは駄目なんだという事も学び、やっていけるのか不安になり、くじけそうになる事もあります。しかし、ゼミの先生に何かと相談にのって頂いたり、幼稚園や保育園実習、体験で行った小学校で子ども達と触れ合っ、大学以外で多くのことを学び、子どもが好きだと再認識したので、子どもに携わる仕事に就けるよう努力していきたいと思っています。

保育園実習ではペープサートや手品等の部分実習を行ないました。準備や練習は大変でしたが、喜ぶ子ども達の姿を見て、学んできた事が生かせるなど実感できました。

3才未満児の担当もして、慣れない手つきでおむつ換えをしたり、子ども達を寝かしつける事は、実際現場でしか学べない事で、とても貴重な経験になりました。初めての経験ばかりでとまどい、わからない事も多くありましたが、今後の実習でもいろいろ挑戦して、自分の引き出しを多く作っていきたくです。

人間発達学部が新しい学部という事もあり、大学側も試行錯誤をしてみえるのかもしれませんが、現1年生からピアノ等のカリキュラムや単位数が変わり、又実習時期も変わると説明を聞き、いろいろな事がだんだんと良くなり、正直羨ましく思います。しかし、羨ましく思っただけははられないので、今の自分に与えられた環境の中で、できる限りの努力をして、2年後卒業する時に、自分にとっていい将来が導き出せるようにいろんな事をしっかり学んでいきたいと思っています。



2011年度 東キャンパス

芸大祭



て ～繋がる広がる無限の輪～

今年の芸大祭のテーマは、【て～繋がる広がる無限の輪～】でした。メインテーマの『て』は皆が手と手を合わせて一丸となり、芸大祭を成功させる。サブテーマの『繋がる広がる無限の輪』には、芸大祭において協力し合い活動することで、「人」と「人」が助け合うことの大切さ、素晴らしさを実感する。学生はもちろん、地域の方々をはじめ、来場された皆様楽しんでいただけるような企画を考えました。そして、昨年3月11日の東日本大震災の被災地へエールを、名芸生のパワーを届けることをめざしました。

今年度は4ステージ、多種多様な音楽が楽しめる「コバルトステージ」を新設し、「イエローステージ」ではダンス・ファッションショーなど、他のステージとは異なった芸術を楽しめるステージ。「オレンジステージ」では人間発達学部の学生が主となり親子・家族が「遊び」を中心に楽しむステージ。そして、「メインステージ」ではコンクール等で入賞しているバンドや優秀企画のステージでした。どのステージも個性的であり、3日間の芸祭期間を盛大に彩ってくれました。また、4ステージとは別に11号館で人間発達学部の学生で芸大祭に参加したクラブやサークルが共同企画として、イベントを立ち上げました。



今年度の芸大祭は実行委員の人員不足のなかで、多くの人との「出会い」がありました。地域の方々の応援の声をいただき、部活やサークルにも協力を依頼し、学生支援課の職員の方々と相談し助言を受け、何よりも心強かったのは、人間発達学部第1期卒業生の先輩方が個人的に手伝っていただいたことです。その姿を見て委員一同気合が入りました。

芸大祭としての期間はわずか3日間、多くの人が「て」を取り合って協力し合うことができなければ、今年度の芸大祭は開催することはできませんでした。何かを成し遂げるには一人の力ではどうしようもない時があります。しかし、どんな困難も多くの人が手を取り合うことができれば、「何でもできる」と実感できた芸大祭となりました。

この経験から得たことは、一人ひとりが『て』を取り合えば困難と思われることも、突破できるということです。その時、あなたを支えてくれる人たちを大切にしてください。そして、その人たちが困っていたら次は自分が助けてあげてください。そうすればこの世界からできないことはなくなるはずです。

東キャンパス芸大祭実行委員長
人間発達学部 3年 荒木翔平



2011年度 西キャンパス芸大祭

たとえば

あなたの描く祭。何か伝わる、何が伝わる？



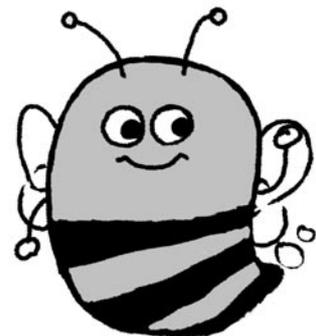
昨年度芸大祭は10月27日(金)から2日間開催でした。芸祭テーマは芸祭期間中の楽しみ方、過ごし方を限定せず個々に合った時間となる事を願い“たとえば”とし、学生は自分たちの個性を表現する場として、来場されるお客さんを楽しませる場として、また自分たちが楽しめる場になるように、など様々な目的を持って有意義な時間を過ごしながらか芸祭の準備に取り組みました。

芸祭の2日間は学生、多くの来場者に名芸ならではの個性的な学祭を楽しんで頂きました。特に昨年は家族連れの方が例年より多く見られ、地域交流イベントのような子ども向けのイベントも大盛況でした。期間中は体育館内と野外、二つのステージを設置し、それぞれアーティスト(OGRE YOU ASSHOLE)のライブや芸大祭実行委員会などによるイベントで2日間途切れる事無く芸祭を盛り上げました。最後、野外ステージで行われたエンディングイベントで盛り上がりは最高潮に達し、無事2011年度芸大祭は閉祭されました。

震災など様々な事のあった昨年でしたが学生、そして協力していただける多くの方々の理解があり、芸大祭をこれまでと変わらず成功させることができました。

この芸祭は皆さんの心にどのように残っているのでしょうか…たとえば

西キャンパス芸大祭実行委員長
デザイン学部デザイン学科
3年 額額雄士



「たとえばち」

名古屋芸術大学音楽学部 第39回卒業演奏会



2012年3月1日(木)・2日(金)の両日、名古屋・伏見にある三井住友海上しらかわホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部第39回卒業演奏会が行われました。

今年度は、声楽7名、ピアノ6名、電子オルガン2名、弦管打11名の合計26名が選ばれ、4年間の学業、研究の成果を、学生として最後のステージとなる晴れやかな舞台上で精一杯披露し、両日、足を運んで下さった聴衆の方々から暖かい拍手をいただきました。また、優秀卒業論文学生の発表も行われ、音楽文化創造学科音楽教育選択コースの3名が選ばれました。

演奏学科長 教授 山田敏裕

名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第14回修了演奏会

2012年3月7日(水)～9日(金)の3日間、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第14回修了演奏会が、名古屋・伏見の三井住友海上しらかわホールで行われました。

今年度修士課程を修了する大学院生の研究成果発表のための演奏会で、今回は13名の大学院修了生の演奏が披露されました。今回も昨年指揮をして下さった濱津清二氏に指揮をお願いし、例年同様コレギウム・アカデミカ(名芸大教員を中心に編成されたオーケストラ)との協演でオペラアリア、協奏曲など3日間、非常にボリュームのある構成で演奏会が行われ、関係者ならびにたくさんの聴衆の方からその研究成果に対して惜しみ無い拍手をいただきました。

音楽研究科 教授 山田敏裕



第16回名古屋芸術大学大学院美術研究科・デザイン研究科修了制作展

名古屋芸術大学大学院美術研究科は、昨年の東日本大震災から1年が過ぎようとしている中、例年と変わらぬ形で16回目の修了生を送り出すこととなりました。

本研究科は、絵画、造形、同時代表現、美術文化の4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己の確立およびその表現方法の深究を、教育・研究の目標として掲げています。震災の後遺症に加え、社会のグローバル化と価値観の多様化が急速に進行する「今」にあって、学生達はこの激動の時代を全身で受け止め、各々が自己の感性を信じ価値を求め研鑽を重ねて参りました。ここに発表されている作品は、現時点における彼らの集大成としての自己表現であり、芸術家としてのスタートの場ともなるものです。ここに生まれた若き作家達が、今日的課題を真正面からとらえ、大きく成長してくれるものと信じ、期待しております。

今後とも彼らを温かく見守っていただきますとともに、合わせてご指導とご支援をお願い申し上げます。

美術研究科長 神戸峰男



名古屋芸術大学大学院デザイン研究科は、学士過程でのデザイン教育を踏まえ、より専門職能に携わる為の知識と技能の修得をめざし、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人を育成することを、目標としています。人間の生活、その他の生態系を含めた環境全体の将来にわたる持続的な共生の思想:エコロジカル・デザインを、全専攻領域に共通するテーマとして持ち、幅広いデザイン研究カリキュラムを用意しています。

研究領域は、〈ヴィジュアルデザイン研究/メディアデザイン研究/ライフスタイルデザイン研究/3Dデザイン研究/クラフトデザイン研究〉の5領域(5ユニット)からなり、各ユニットの専門領域研究をベースに、他領域のデザインユニットと共同で研究活動を行うことにより、広角なデザイン研究活動をめざします。

今年度も又、新たな修了生が社会に出ます。一社会人としての始まりです。様々なデザインの現場で、今後とも皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

デザイン研究科長 落合紀文



『第39回卒業制作展』

今回で39回となる名古屋芸術大学卒業制作展は昨年より2週間早い2月21日(火)から26日(日)までの6日間、愛知県美術館ギャラリー(美術学部/美術学科日本画・洋画・美術文化 デザイン学部/デザイン学科全コース)、名古屋市民ギャラリー矢田(美術学部/美術学科彫塑・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画 デザイン学部/メディアデザイン・メタル&ジュエリーデザイン・テキスタイルデザインコース)、名古屋芸術大学西キャンパスでは、アート&デザインセンター(美術学部/洋画 デザイン学部/スペースデザイン・インダストリアルデザイン・セラミックデザインコース)の三会場において作品展示がされました。

また、25日(土)の14時からと26日(日)10時から愛知芸術文化センター12階にあるアートスペースDにおいて、映像作品上映会も行われました。恒例となった三会場を巡るスタンプラリーによる学生作品プレゼントは今回も大変好評でした。コンペ形式によるポスター、ちらし、DMのデザインは年々増えていく応募作品の中から鈴木菜津子さん(デザイン学科メディアコミュニケーションデザイン選択コース4年生)の作品が選ばれ、ポップで若々しい印象をもって頂きました。

今年の卒業制作展は見る側にゆっくりと鑑賞できる展示空間が工夫され、多くの方がじっくりとひとつひとつ

つの作品を見られていました。作品には昨年の大震災を始めとする数々の深刻な出来事をきっかけに、自身を見直す心の急成長が背景にあるのでしょうか、個々の胸の内にあるテーマを深く掘り下げたものが多く見られました。伝えたい思いはプレゼンテーションのスキル向上と教員との良好なコミュニケーションにより、質の高い内容を発していました。また現代アートといわれる中でもネイティブ・ジャパニーズの根を意識の底に植えつけ、技術向上ばかりでなく作家として意図表現する事を目指す作品が増えてきたように思いました。矢田会場では美術学部、デザイン学部の垣根の低さを感じさせる作品が多く見られ、今年初めて卒業制作展を迎えたアートクリエイターコースは幅の広さとクオリティーの高さを感じられました。

また、25日(土)には、愛知芸術文化センターのアートスペースAにおいて東京藝術大学名誉教授の絹谷幸二さんとNHKエデュケーショナル業務主幹の仲居宏二さんをお迎えして「アートの匙加減」というタイトルで卒業制作展記念講演会を開催しました。制作の根底にある命への感謝の念は我々芸術を志す者にとっても勉強になりました。

皆さんのご協力により7000名を超える来場者を迎え、閉展できました事を感謝申し上げます。

卒業制作展委員長 荒木紀江



学生部からのメッセージ

～社会の多様なニーズや興味・関心に対応できる クリエイティブな人材を育成するために～

世界経済不安や震災の大きな影響により、我が国の社会情勢はまだ先の見えない厳しい状況にあります。

2011年度の本学卒業生の就職状況も大変厳しい状況にあり、なかなか改善されない現状にジレンマを感じながら学生部職員は一生懸命その支援に当たっています。

本学は、こうした状況に対し、2012年度に向けてカリキュラムと学生支援に新たな改革と対策を実施します。

まず学生の学びの範囲を大学全体に広げ、他学部の特徴ある科目も履修できるようにカリキュラムの変更を行います。他の専門性を学ぶことで視野を広げながら自分の力を醸成することを狙いとしています。また自分の持てる力を引き出し、磨き、活かすことを狙いとしたキャリア教育も行います。

学生支援において就職支援強化を図ります。先に述べたキャリア教育がその1つで、企業等の最前線で活躍する卒業生との連携を図り、現場で求められる力とは何かを理解し修得することを目指しています。また就職試験対策として面接等対策講座を新規に開設し、就職支援の強化を図る予定です。そのほか学生生活が充実できるように、学生相談、奨学金及び奨励制度の見直し提供する予定です。

社会の多様なニーズや興味・関心に対応できるクリエイティブな人材の育成に努めます。ご理解とご支援をお願いいたします。

学生部長 菅嶋康浩

後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

音楽学部教養部会 「原発事故後の科学的復興対策」

音楽学部教養部会主催で昨年12月15日、東キャンパスで元名古屋大学の河田昌東先生に「脱原発を考える」という演題で講演をして頂きました。両キャンパスの教員と学生を合わせ聴講者が170人を超える盛況ぶりで、講座終了後も積極的に質問した学生がいたほどでした。

先生はチェルノブイリ原発事故で汚染されたウクライナにおいて、同国の農業大学とともに除染と農業の両立を科学的に実地研究しているNPOのメンバーです。そのご経験から福島第一原発事故後、広範囲に汚染された日本で安全な食品を手に入れる方法、非科学的な風評に惑わされない生活の仕方などを具体的に教えて下さいました。

例えば、キャベツや大根などのアブラナ科には放射性セシウムが高濃度に蓄積される一方、ナス科やネギ科はかなり安全です。つまり汚染が懸念される東日本産でもナス科やネギ科の食品は危険性が低いと考えられます。またアブラナ(菜の花)全体は高濃度汚染されても、そこから抽出された菜種油は安全で、食用やバイオディーゼル(軽油代替

物)に使えます。一方、菜の花の葉や茎、種の皮などには放射性物質がかなり含まれますが、発酵させて作ったバイオガス(天然ガス代替物)は安全で、残った滓はゼオライトで放射性セシウムを除去すれば良く、土壌の除染にも役立ちます。

上記以外にも河田先生のお話は多岐にわたり、大変興味深いものでした。ウクライナでも日本でも先生のグループの活動は非常に注目されています。学生の中には「卒業制作の授業と重なって行けないのが残念です」と落胆して話す人もいました。彼女のように「お話の内容を知りたい」という方には、昨年出版されたばかりの『チェルノブイリの菜の花畑から～放射能汚染下の地域復興』(河田昌東・藤井絢子・編著、創森社)をお勧めします。河田先生はこの書籍も本学に寄附して下さいました。現在は東キャンパスの図書館に入れましたのでご覧下さい。

音楽学部教養部会専任講師 茶谷 薫

「アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン 第13回定期演奏会」

オープニングは、今回で3回目となるステージマーチング。ゲストの鈴木英史先生の代表作「メリーウィドウ」で始まりました。

マーチングは初心者が多く、メンバーは大変苦労しましたが、音楽的視野が広がり、表現力も豊かになったと思います。続いて鈴木英史先生の学生作品に対する講評・解説等、楽しいトークがあり、学生たちもリラックスして演奏できたのではないのでしょうか。

そして二部では、小野川先生のセンスあふれる音楽を、たっぷりと堪能させて頂きました。三部ではヤン・ヴァンデルロースト先生の登場です。パワフル、そして優雅なタクトで、ホール全体が夢の世界へと導かれました。

一年生主体の演奏会ではありますが、多くのお客様に御来場賜り、温かいご声援を頂いたことが、今後の音楽活動に大きな影響を与える一日であったと思います。

音楽学部非常勤講師 大西雅博



後援会補助公開講座実施報告

美術学部

旧加藤邸アートプロジェクト2011 「記憶の庭で遊ぶ」展

北名古屋市内東部に所在する明治時代の民家、旧加藤家住宅を会場にして、アート作品を主体にワークショップやアートパフォーマンスを加えた企画展は、2011年で第3回を迎えることが出来た。デザイン・美術学部の学生・卒業生のアート作品、音楽学部有志による音楽パフォーマンス、人間発達学部サークル「自由工房」の子供のためのワークショップ。そして美術学部卒業生の創作茶会も開催された。ということで、学内4学部参加によるアートプロジェクト実現となった。



柏井裕香子「ゆうげのしたく」



音楽学部有志「音楽パフォーマンス」



櫻井里恵「創作茶会」



人間発達学部サークル自由工房
ワークショップ「こわいところどーこだ」



小澤道子「今日の晩ごはん」



水野 峻「記憶から来た男」

出品者の傾向も、学部1年生から2年生そして院生の2年生に至るまで、各学年層に広がったこと、日本画コースの学生が初めて参加したことも、今年の新しい特徴である。

展覧会公募のキーワードを「記憶」としたことも、この企画の大きな意味を持っている。殆どどの出品作品が「記憶」をコンセプトにしていたことの功罪もあるが、この古い民家内に設置されている

北名古屋市の回想法センターの、年配の方々への記憶を喚起する様々な文化活動からの影響も少なからずである。

現代のアートの表現の方向が自己追及にあり、自己表現を旨としていて、自分の現在とその生い立ちをモチーフにすることを支えにしている。しかしこの企画への応募では、アートが個人の思考や感性を通して作品が生み出されるにしろ、個人をはるかに越えた過去や文化への想像を抱えざるを得なくなる。それは現在から近未来を夢見がちな現代の私達が、それとは逆の、過去から現在を想像し、推し測る自分に気づくこととなる。これには識者たちの間に賛否もあろうが、現在を重視する余り、つい過去や残されたものを一切更地にしてしまいがちな現代の思考を再考する機会ともなろう、などと考えて見るのである。

このプロジェクトがもう少し、2・3回は続いてくれることを希望している。

美術学部 庄司 達

後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

プリミティブアート こどもの時間 旧常滑北保育園 2011年11月18日-20日

「10年程前、自由学院の幼稚園が建て替えられることになり、たくさんの古いこどものいすや遊具、教材をいただいた。それらのものを使い、別の遊具や家具をリデザインし、大学内のギャラリーや名古屋市内の倉庫、アートスペースで展覧会とワークショップを企画した。

新しく入園した、昔のことを知らないこどもや大人も楽しむことができた。その後、古くなったものをもらう機会が増え、それらのリデザインを提案し、制作した。

旧常滑高校からいただいたものは旧常滑高校でのクラフトフェスタで、とこなめ中央商店街からいただいたものは、ギャラリー「rin」で、たくさんの卒業生や学生の若いデザイナーの卵たちが、そこでしか出会えない魅力的なものを制作した。古いものに流れる時間を消し去ることなく。

昨年の春、常滑北保育園に残る古い教材や写真、おもちゃを見せてもらい、そこからキッズプロジェクトが始まった。日進市に30年ぶりにリニューアルオープンした海賊船へみんなどで見学に行き、魅力的なプリミティブと出会い、また常滑でのこども人形劇の活動や、藤花荘の安藤さん森さんの作品などを知り、「こどもの時間」をキーワードにした展覧会とワークショップの計画が動き出した。こどもにとってちょうどいいスケールの空間で、何度でもまた来たくするような企画を、また大人の



人にとっては、どこかに今でも持っている「こどもの時間」を見つけてもらえる展覧会とワークショップを目指し、学生、卒業生、交換留学生、その他常滑の人たちと廃園になった園舎を使って開催した。

プレイルームでのワークショップの企画、常滑牛乳を使ったミルクカフェ、子どもと絵本をテーマとした家具の展覧会、フラッグの制作まで準備したかいがあって、久しぶりに子どもたちのにぎやかな声が広い空間に響き渡った。

デザイン学科 平田哲生

メディアコミュニケーションデザインコースの 本の展覧会「ブックショップ」展

2011年は東日本大震災の起こった忘れる事のできない年となってしまいました。デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコースは東京での展覧会を予定していましたが、世の中の大きな変化をメディアを学ぶ名芸生が受けとめ、名古屋にいる私たちにできることは何か真剣に考え半年間の新聞をスクラップした大型本を制作しました。

その「東日本大震災の本」を展示すると共にコース発足後4年間学生が制作、デザインしてきた本(絵本や写真集や小説等さまざまなヴィジュアル本)を長者町のアートラボあいちで展示しました。特別講義ではご指導頂いている愛知県出身のブックデザイナー、祖父江慎氏(MCDコース特別客員教授)による公開講座も開催。祖父江氏は、小説や漫画をはじめとする書籍の装幀を数多く手がけてきました。近年は、福音館書店より刊行中の「うさこちゃん」シリーズのリデザインを手がけている

ことでも知られています。そんなブックデザイン界の巨匠が『僕とうさこちゃん』ディック＝ブルーナの絵本とデザイン』をテーマに楽しい講義を繰り広げました。



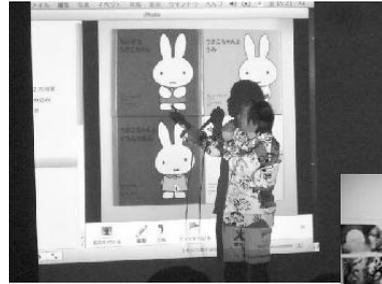
▲学生たちが制作した大震災の大型本

「うさこちゃん」に惚れ込んだ自身のエピソードや仕事で携わった時に工夫したこと、ディック＝ブルーナ氏（うさこちゃんの生みの親）のデザインについての年代別考察など、非常に興味深い内容でした。

祖父江氏の話の中で「特定の人に気持ちを込めて作った作品が、結果的に多くの人に受け入れられる。最初から多勢を相手にしてはならない。」というメッセージが印象的でした。

本というメディアは最新式のメディアではありませんが、ゆっくり考えたり、まとめたりができ、一度情報ソースを取り込んでしまったとしても思いを込めて作った本は様々な形で長くのこっていくものです。今回後援会から援助いただいた展覧会や特別公開講座は参加者の心にじっくりと伝わっていくことを期待しています。

デザイン学科 榎田珠実



▲祖父江氏による「うさこちゃん」のデザイン講義



▲絵本で使われた原画も展示

メディア系コース特別企画（2011年8月21日・26日） 「invisible loophole」展における公開講座

現代の社会システムに、メディアやテクノロジーの革新が大きな影響を与えていることは周知のとおりです。それは単に生活の効率化や利便性の追求といった次元を超えて、私たちの文化や制度の根底を貫く問題として再考する時期にさしかかったという認識が、今回の公開講座と関連展示を企画した理由です。

震災5ヶ月後という時期に、本学大学院同時代表現領域や、デザイン学部メディアデザインコース（旧造形実験コース）を修了／卒業したOB、および『情報技術論』を担当する教員が『アートラボあいち』で、現在のメディアアート／メディアデザインに介在する問題についてレクチャーをおこないました。

また、関連企画として『invisible loophole』というテーマで本学のメディア系大学院生（デザイン研究科メディア研究領域等）も加わり、作品展示もおこないました。

河原崎貴光さんは、具体的な空間を、インターネット

の動画配信システムを介して重層的に繋ぐインスタレーションを提示し、そのような仕掛けが文化に与える影響についてレクチャーしました。

岡川卓詩さんは、日本のサブカルチャーに登場する怪物などのアイコンを、ネット上にある花や宝石、蝶などの画像のみで（ジュゼッペ・アルチンボルド※のように）再構成しました。レクチャーでは、そのような表現に至ったプロセスや、現代における画像の意味とその背景について語りました。この他にも、人間の行為や記憶と、現代の電子メディアの関係についてのレクチャーがおこなわれました。尚、8月21日は会場となった名古屋市中区の『アートラボあいち』のオープニングと重なったため、県内外から多くの文化関係者等の観覧がありました。

（※16世紀のイタリアで活躍したマニエリスムの画家。静物画のように緻密に描かれた果物、野菜、動植物、本などを寄せ集めた肖像画を描いた。）

デザイン学科 津田佳紀



後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

2011年8月6日(土)午後2時30分より、「ウイנקあいち」大ホール(愛知県産業労働センター内)において、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長の小田豊先生をお招きして2011年度名古屋芸術大学人間発達学部特別公開講座「今後の保育・幼児教育の動向と課題」を開催いたしました。

人間発達学部では、2008年4月に「人間発達研究所」を設立し、研究活動の一層の推進とともに「地域に開かれ、地域に貢献する」学部を目指して、各種の事業を実施してきました。この講座はそうした事業の一つで、本年度も後援会から補助をいただき、学生はもとより広く県内外の一般の方や保育・教育関係者に呼びかけ、開催いたしました。

今回は、幼児教育現場において関心の高いテーマである、「子ども・子育て新システム」について焦点を当てたテーマとしました。会場には幼稚園、保育園の関係者をはじめ、教育、保育を学ぶ学生やその父母など、この制度や新たな動向に関心を寄せる多くの方が聴講されました。

講師の小田氏先生は、国立滋賀大学教育学部の教授から1994年に文部省へ転じ、教科調査官、主任視学官、国立教育政策研究所次長などを経て、2004年より現職を務められております。先生はあいさつを兼ね、まず、国立特別支援教育総合研究所の業務について話されました。特別支援教育に関する研究機関の理事長として先生は、「一人ひとりが違う。一人ひとりの良さがある。一人ひとりのニーズに応じた幼児教育を行っていく必要がある」と話されました。



▲小田 豊氏



▲熱心にメモを取りながら聞き入る聴講者の皆さん



▲「子ども・子育て新システム」は今注目のテーマ



▲身振り手振り、ユーモアを交えたお話しに引き込まれます

また、研究所に隣接する付属学校の発達障害を持った子どもたちとの日々の生活や、教育の在り方、取り組みについてもお話しくさしました。

そして、先生がワーキングチームの委員として関わられている「子ども・子育て新システム検討会議」より7月27日に発表されたばかりの「中間とりまとめ」について主旨や背景、具体的なポイントなどをスライドやレジュメを基に解説されました。先生はまず「前提として、この制度でいう幼保一体化は、従来から議論される幼保一元化とは考え方が違う」ことを、そして、この制度の基本的な考えは「全ての子どもへの良質な成育環境を保証することと、子ども・子育て家庭を社会全体で支援する新たな一元的システムを構築する」ことにあることを述べられました。また、この制度の背景として少子化や子どもの学力低下、家庭教育の崩壊などの課題があることも話されました。先生は、「誰もが選択自由な社会の実現を目指して話し合いを進め、各家庭も自分の子どもの教育を選択できることが重要である」ことや「幼保一体化と給付システムの一体化で、本当に必要なところへ給付するが、子ども園給付(仮称)では、3・4・5歳の保育料が全国一律になることで、親はワークライフバランスの違いや子どもの性格に応じて、幼稚園、保育園を迷うことなく選ぶことができるようになる」ことなど、この制度が目指す社会のイメージを分かりやすく伝えられました。最後に、聴講する多くの幼稚園、保育園の関係者からの質問にも丁寧に答え、講演を終えられた小田先生に、会場から大きな拍手が送られました。

子ども発達学科 准教授 阿部 孝

第22回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で22回目を迎え、東西キャンパス合わせて32講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた講座に加え、素描、ペーパーアート、織物、歌唱発声音楽療法などの新たな講座を開講し、好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においても講座を開講し、8組の親子に受講していただきました。

今後も皆さまの幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。皆さまのご参加をお待ちしております。なお2012年度の講座につきましては、6月中旬頃パンフレットが完成する予定です。

お問い合わせは、本学生涯学習センターまでお願い致します。また名古屋市との連携講座に関することは、名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせください。



▲吹きガラスに挑戦



▲ピアノを弾こう



▲歌唱発声音楽療法



▲厚紙とリネン紙で自由な絵織り

2011年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	人物(着衣)のデッサンと油絵実技	14	西キャンパス
2	美しい水彩画Ⅲ 一秋を描く、野と森と花一	29	
3	ピギナーズチョイス 一素描を楽しむ一	19	
4	体験！リトグラフ ～多色刷り石版画で作品を～	8	
5	カラー銅版画講座	10	
6	木彫を楽しむ PartⅦ	13	
7	紙ワザ！ペーパーアート 三ペーパークラフトからペーパージオラマまで	3	
8	誰でも出来る優しい陶芸講座(器から人形まで)	12	
9	レリーフ(浮き彫り)制作を体験	3	
10	粘土による造形 ～テラコッタ～ PartⅡ	8	
11	吹きガラスに挑戦！	10	
12	子ども造形と積み木遊び「和久洋三が提唱するWM (和久メソッド)創造共育」(幼児クラス)	9	
13	子ども造形と積み木遊び「和久洋三が提唱するWM (和久メソッド)創造共育」(小学生クラス)	4	
14	やさしい創作折紙	23	
15	美術鑑賞入門 一フランス近世絵画の魅力一	10	
16	ゆっくり楽しく【2時間】学ぶイタリア語基礎(入門～初級)	12	
17	ハングルへようこそ 一韓国語・韓国文化の入門一	23	
18	楽しいピンポン(卓球)	8	
19	メダル制作 一鋳造で銅のメダルを造る一	7	
20	厚紙とリネン紙で自由な絵織り 一身近な材料で枠機を作るところから一	4	
21	自然の色を染めて織る 一リジッド機を用いて一	10	
22	Macintosh CG入門！ ～ Adobe Photoshopで 簡単デジタルコラージュ制作～	7	
23	ピアノを弾こう ～はじめの一歩から～	9	東キャンパス
24	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル	18	
25	二胡を楽しむ ～入門編～	13	
26	二胡を楽しむ ～初級編1～	7	
27	ジャズの和音の押さえ方(ピアノ、オルガン)	4	
28	歌唱発声音楽療法 一肺活量を増やして元気に長生き一	27	
29	歌舞伎の歴史と代々の団十郎・その光と影	10	
30	パソコンで簡単な作曲をしよう！	8	
31	インターネットとWordではがき作成	6	
32	家族の変化と子どもの育ち(子育て)	4	
	合計	352	

2011年度 名古屋市生涯学習大学連携講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	親子でつくるたのしい絵手紙	8組16名	名古屋市女性会館

2011年度 ブライトン 大学賞

昨年は3月7日に空港に出迎え折しも東日本大震災発生の日が表彰式だった。此の大惨事、誰が予測をした事か？目を背けたいような、其れでも真摯に見続けなければならない現実を見守る中で大津波の甚大さは記憶に新しい。立ち退いた我が家にも立ち入りたくとも通行禁止に放射能の雨が降る。



恒例の卒展会期は今回は随分と早まり2月21日(火)より26日(日)迄で、従前はセントレア中部国際空港への出迎えが続いたが、英国二女性審査員は成田経由で風もなく穏やかに爽快な快晴の20日午後新幹線で来日された。車中より望む日本の富士山がくっきりと鮮明に見られたと降車されたお二方より大感動を聞く。

本年審査に伴い2006年度2007.02.27～03.04以降二度目の来日となる Prof. Karen Norquay 学部長と共に初来日の (Photography) Prof. Joanna Lowry 氏のご出席である。時差に伴う疲労で突然眠りに落ちる翌日に朝一番より三会場を案内した。各科教員より事前に示された nominate 作品 (県美54) (矢田14点) (A & D C 無し) を重点的に審査された。本来は忙しく三会場を走り見るだけで学内見学する余裕もなく過密な日程を clear し宿泊先に戻る処、西キャンパスでは鑑賞後に学内施設を積極的に案内する事でお二方は審査の緊張も解け relax された中で、学生が学ぶ A・B 棟講義室、図書館、食堂、X 棟テキスタイル工房、U 棟、デザイン棟、Y 棟事務室、留学生コミュニケーションコーナー、C 棟セラミック工房、D 棟木工房、K 棟 (日本画・版画棟)、H 棟 (彫刻・造形棟) を意欲的に見学されて随分と感動を受け特別の感謝を戴く。X 棟デザイン事務室では prof. Karen Norquay 氏の恩師でもあると云う Manual の George Hardie 氏や James Dyson 氏ポスターが入口に飾られており、ユニークなデザインの掃除機展示共にとても感激され NUA 訪問記念と撮影をされた。

嘗て『A & D C』に於いて2006年時に記念個展された時の二氏の独自のポスターだった。最後に和田義行国際交流センター長の研究室 (U 棟) も訪問し



communication して学内終了。学生が示す作品題名を見て英語表記に直す時に語学精通の生駒氏は予測し、お二方に直接理解して貰える為に制作者が意図し考える英語 title に苦慮された。此処に就任されて以降彼は毎年、此の機会に nominate ご推薦を各科教員に浸透させるべく訴えてきたが、本の一部は求める英語表記されたが、其の浸透と進歩は残念ながら今回も見られず。卒展を通して学生の意識もとても薄くて国際化の舞台に立ち勇んでいくにはこうした又とない機会に自己を磨き、急ぎ国際人に仕立てる事にある。自らの作品が秀逸作品に入る表彰対象者だとは思っていない。日本語に於ける哲学的タイトルも英文化したらどんな表現となるか其の逞しきチャレンジ精神も見えてこない。

毎回どう伝えるか困難極める時期だと想う。表彰されるのは懸命に取り組んだ其の人の直向きさと個性であり矢張り人柄だと想う。二審査員の審美眼に叶った人たち10名が栄えあるブライトン大学賞式典に秀逸作品と見出されてこそ其の制作者が見事に表彰式に招待される。此の日の為に彼らは学んだ事柄を基に見えない努力を懸命に続けてきた。展示は、彼らに取っては就学研修以来学んだ多くの『集大成版』でもある。

The University of Brighton Awards 2012

賞 (Prize)	受賞者氏名 (Name)	作品名 (Title of Work)
1等賞 (First Prize)	水野 里奈 (Ms. Rina Mizuno)	これがかきたかった (This is what I want to Paint)
2等賞 (Second Prize)	中野 彩愛 (Ms. Sae Nakano)	パノラマは夢みるものを取り残す (Panorama Leave the Dreamer)
3等賞 (Third Prizes)	田中 里奈 (Ms. Rina Tanaka)	at the stair of my home Capri island
	貴田 遼平 (Mr. Ryohei Kida)	来院患者用電動カートの提案 Soica (An electric wheelchair for hospitals)
佳作 (highly Commended)	小出 伶奈 (Ms. Rena Koide)	包容 (Tolerance)
	竹内 麻 (Ms. Asa Takeuchi)	ランプブラックはサラエボに (Lamp Black to Sarajevo)
	小澤 道子 (Ms. Michiko Ozawa)	呼吸 (Breath)
	大平 穂波 (Ms. Homami Ohira)	きのこさん (Mushroom-san)
	大久保 圭 (Mr. Kei Okubo)	ヨムトコロ一本のある暮らしの提案一 (All places in the house become a study)
	馬越 景子 (Ms. Keiko Umakoshi)	Another world

思いがけずも抽出され栄えある表彰台に向かう10名学生に取れば感動的で夢心地だったのではないかと思います。

お世話を続け早5年目ともなるが、何故か、毎年胸ワクワク胸キュンさせられる取って置きの世界観でもある。選ばれた学生にとっては、これは初 debut でもあるように思える。大学内の印象が良かっただけに倍の人の入賞をお二方は考えられたとか、嬉しい事。此の表彰は、自信に繋がる要素があり、最大に誇れる名誉的な受賞であるかと。恒例のブライトン大学賞表彰式及び祝賀会は、2月24日(金)16:30～名古屋東急ホテル4階「調べの間」に於き施行。

個々は益々の精進を重ねて国際舞台への階段を確実に駆け上って欲しいと願う。



西キャンパス 学生支援課
国際交流センター 川島憲雄

海外美術研修

美術文化コースでは、3年生の必修授業「海外美術研修」を2月28日から3月5日の日程で開講し、研修は次のような内容で行なわれました。

- 2月29日 ルーヴル美術館(1)、オランジュリー美術館
- 3月1日 ルーヴル美術館(2)、オルセー美術館
- 3月2日 ノートルダム大聖堂、サント＝シャペル、フランス歴史博物館(スービーズ館)、パリ国立近代美術館(ポンピドゥー・センター)
- 3月3日 ヴェルサイユ宮殿、ギユスターヴ・モロー美術館



初日のルーヴルでは主に、北方のルネサンス美術、フランスの近世美術を見学しました。ファン・エイク、ルーベンス、レンブラント、フェルメール、ブッサン、ヴァトーらの作品を参加学生の解説や随行教員の解説を交え順次見ていきました。また、午後遅くからはオランジュリー美術館に移り、モネの睡蓮連作や企画展「ドビュッシー音楽と芸術」などを観覧しました。2日目のルーヴルでは、地下の「中世のルーヴル」、ミロのヴィーナス、サモトラケのニケを経由して、イタリアのルネサンス、バロック絵画、19世紀フランスの大型絵画が展示されているドウノン翼を中心に回りました。夕方からは新装なったオルセー美術館に移り、展示室が一新された5階の印象派展示室、2階の後期印象派展示室において、マネ、モネ、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンらの名画に触れることができました。



3日目は美術館を離れ、歴史的な建築を見て回りました。ノートルダム大聖堂ではまず塔に昇り、そのあとで聖堂内部を見学しました。サント＝シャペルでは壁面全体を覆うステンドグラスの神々しい輝きに魅了されました。スービーズ館では、ロココ装飾の精華ともいべき楕円の間の装飾やブーシェ、ナトワールらの名画を見学しました。夕方はポンピドゥー・センターで20世紀美術、現代美術に触れることができました。最終の4日目は、ヴェルサイユ宮殿の礼拝堂や鏡の間の装飾をじっくり見学しました。研修の最後は象徴派の巨匠モローのアトリエが美術館となったモロー美術館を訪ねました。素描が額入りとは言え手に取れるように展示しており、学生たちは作家との一体感を強く感じたようでした。

このように大変駆け足ではありますが、中世から現代までの美術の歴史を傑作のみでたどることができたことでしょうか。体力的にかなり厳しいスケジュールをもちとせず、学生たちは精力的に見学をこなしてくれました。卒論に直接生かせる幸運な学生もいましたが、研究対象は異なっても人類の至高の芸術遺産の数々にじかに触れたことが必ずや今後の研究や人生にさまざまな形で役立ててくれると信じています。

美術文化コース 准教授 栗田秀法

2011年度
名古屋芸術大学後援会

研修旅行報告



今年度の後援会研修旅行は、10月15日、16日と1泊2日で兵庫県の有馬温泉方面へ美術館、宝塚劇場の鑑賞を楽しみました。

竹本学長を始め、大学教職員の皆様、後援会の先輩の皆様、現役員で有意義な旅行となりました。

出発時の天候が小雨だったので心配されましたが、皆様の心がけが良くみるみるうちに秋晴れに変わってました。バスの中では会話が花が咲き遠足状態でした。途中窓から淡路島が見え、皆さん写真を撮ってこの旅行の1つの思い出にされておられました。

昼食後、兵庫県立美術館「榎忠展」を見学しました。銃や大砲などの、刺激的な作品が並び、それらは、廃材となった金属で作られた物でした。本物の葉莢、溶けた鉛、機械の部品の山や変形、切断された作品もありました。とても廃材とは思えないすばらしい作品でした。



宿泊場所は、兵庫県神戸市の有馬温泉の高台にある、街と丹波山地を一望できる、リゾートホテル有馬温泉グランドホテルです。温泉は秀吉公のお気に入りの名湯だとか…。

宴会では、時間を延長し大いに盛り上がり、おひとり、おひとりの持っておられるものを出して致しました。歌あり、踊りあり、おしゃべりあり、アルコールありと、たくさん交流が高められたステキな宴になりました。途中、名古屋芸術大学を卒業され宝塚に就職された演奏家の田中綾女さんの登場もあり、より一層盛り上がりました。最後に、参加者全員で輪になり、「上を向いて歩こう」を合唱して、おひらきになりました。

翌日は、皆様が楽しみにされていた、宝塚劇場の鑑賞です。宙組のクラシコ・イタリアーノ（最後の男の仕立て方）を観てきました。イタリアの一流紳士服ブランドとナポリ仕立てのスーツをめぐり、伝統の技、職人たちの想い、人との絆、男の友情、大人の男の優しさ、男の美学など様々な人間模様が描かれたミュージカルで最後には私の頬をつたう物がありました。

私事ではありますが、先日、花組を観てまたあの感動を再度、あじわってまいりました。

今回の研修旅行では、後援会全員の一層の絆を深めあえた二日間だったと思います。

副会長（事業委員長） 佐藤佳子



名古屋芸術大学音楽学部 同窓会総会・卒業生懇親会

教職センター室長 太田成夫
(7期 声楽科 卒業)

去る2011年10月30日(日)にルプラ王山において、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は山田正文会長を議長に、平成23年度事業報告・決算報告、平成24年度事業計画・予算案、理事改選などを審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を移しての「懇親会」は約230名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。山田正文会長の挨拶でパーティーが始まり、歓談の輪がいくつものなか、在学生の小笠原 彩乃さんの電子オルガン、卒業生の勝 良平さんのピアノ演奏なども加わり、おおいに盛り上がりました。

また今回のゴールデンプライズは、イタリア声楽コンクールと日伊イタリアコンクールに入賞された伊藤貴之さん(29期 声楽科舞台芸術選択コース)、「熱帯ジャズ楽団」などでドラム奏者として活躍されている平川象士さん(20期 器楽科弦管打専攻)のお二人に贈られ、伊藤さんによる返礼演奏が披露されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後もロビーには尽きることのない話し声があふれていました。

名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 同窓会総会・卒業生懇親会報告

美術学部美術学科 教授 岩井義尚
(5期彫刻 卒業)

去る2011年10月23日(日)、第24回美術・デザイン学部同窓会総会・懇親会が2010年と同じくホテル「ルプラ王山」に於いて開催されました。

総会は芳賀基純副会長(20期洋画卒)が司会と議長に、青木高弘会長(4期ID卒)の挨拶後、2010年10月1日～2011年9月30日までの事業報告・決算報告、2011年10月1日～2012年9月30日までの事業計画・予算案が担当者から提案があり、いずれも原案どおり承認されました。

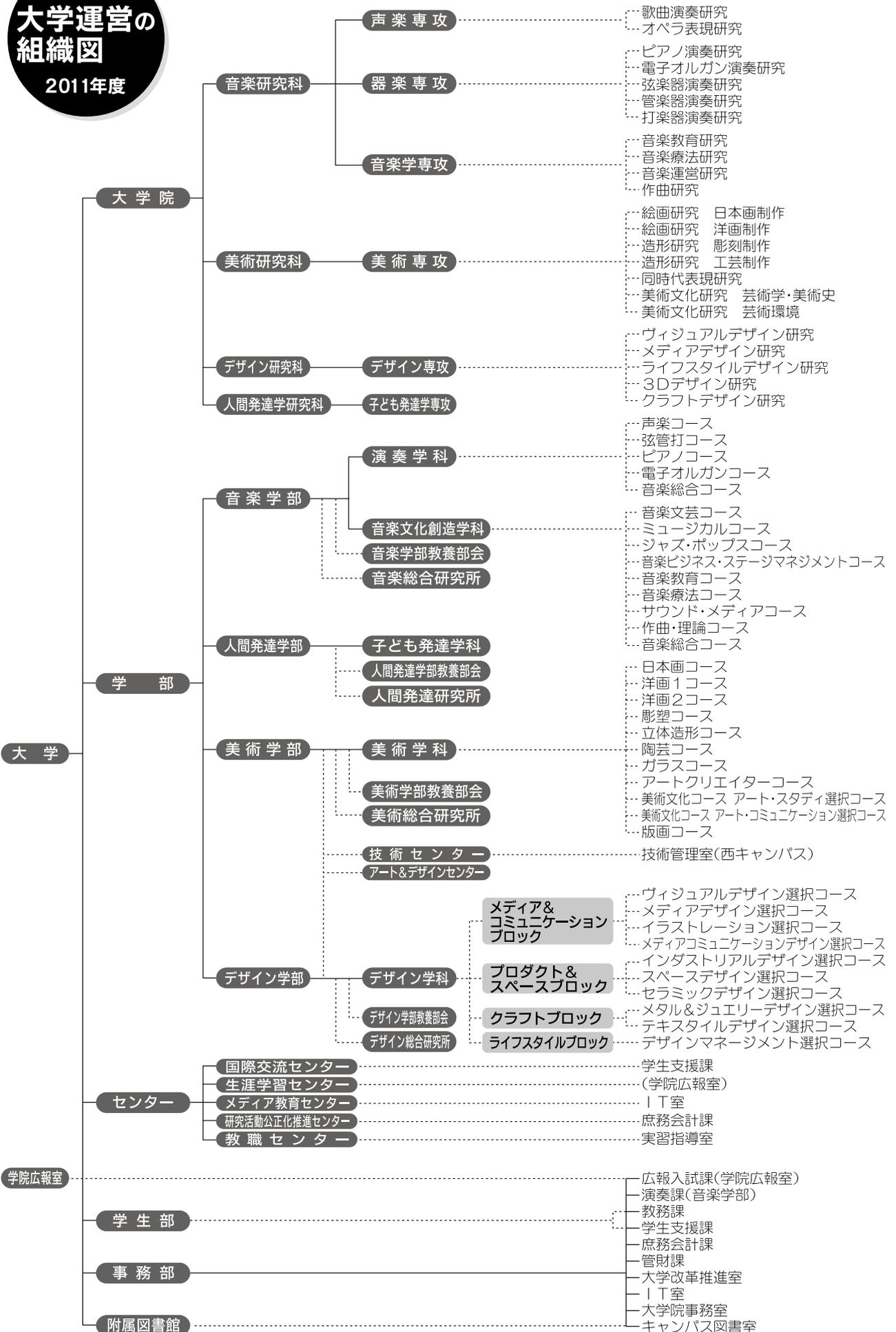
会場を移しての懇親会は、加藤雄一郎評議員(28期彫刻卒)が司会を行い、デザイン科卒業生ロックグループの「The キャンプ」のミニコンサートがオープニングで行われ、川村大介理事長のご挨拶をいただき、多数の先生方と約200名の参加者とともに拝聴しました。その後



は、恩師や友人との久しぶりの再会、年を隔てた同窓生との新しい繋がり、歓談の輪がいくつも生まれ、有意義なものに発展していくことを予感させる良い機会となりました。



大学運営の組織図 2011年度



後援会学費貸付事業

長引く不況の中にあつて、東日本大震災が追い打ちをかけるように起こりました。こうした厳しい状況の中、保護者が亡くなられたり、病気や失業されたりした家庭は大変だと思います。こういったことに対して少しでも助けになればと始められたのが、この学費貸付事業です。1993年に始まってから、現在まで80名弱の学生が利用しています。

後援会の皆さんの会費を基金にしているため、貸付を受けるにはいくつかの条件があります。平成23年度からは最高学年在学者を対象とするよう運用を変更いたしました。本規程をお読みいただき学費貸付事業を活用していただけたらと思います。申込み受付窓口は各キャンパス学生支援課となっております。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

(1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)

(2) 貸付金返済計画書に基づく同意書

(3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

(1) 後援会学費貸付口座預金

(2) この規程に基づく返還金

(3) 寄付金・その他の収入

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。

3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。

4 返還は、学生支援課を窓口とする。

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

2 貸付金は無利息とする。

3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

(1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。

(2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。

(3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。

(4) 修学に十分耐うるものと認められること。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生支援課を窓口とする。

附則

1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。

2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。

3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。

4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名。
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の仕事は次の通りとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 - (2) 監事は会務を監査する。
 - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 - (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は役員会の議を経て会長が定める。
- 附 則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し、即実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の甲意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、甲慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、甲慰金5,000円を給付する。
3. 役員2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、甲慰金として5,000円を給付する。
4. 甲慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。

「木祖セミナーハウス」をご利用ください

利用目的

木祖セミナーハウスは、共同生活を通じて相互の理解を深め、親睦を図るとともにスポーツや自然と親しむといった福利厚生を目的としています。主にセミナー・合宿等の学校行事、教職員の研修の場として利用する他、厚生宿泊施設として利用できます。



利用できる方

- ① 本学院傘下の学校の学生・生徒（生涯学習等含む）及び園児及びその家族
- ② 本学院の教職員（退職者及び非常勤講師・非常勤職員を含む）及びその家族
- ③ 本学院傘下の学校を卒業・卒園した方及びその家族
- ④ ①～③に掲げる利用者から紹介された者で、管理責任者が特に利用を認めた者
- ⑤ その他、木祖村の行事等で管理責任者が特に利用を認めた者

利用期間

通年（但し、9月の第2土・日曜日及び12月30日の宿泊から1月2日までは休業）
※また、本学院の都合により、その他の日に臨時休業する場合があります。

施設利用料

1泊1名分の利用料は次のとおりです。（食事は含みません。）

①	②	③	④	⑤	⑥
本学院の園児 （〃卒園で中学生 以上の方）	本学院の 学生・生徒 （〃卒業生）	本学院の教職員 及び退職者 （引率出張）	①～③の家族	①～④の紹介	木祖村の行事等 関係者 （教育目的利用を含む）
500円 (2,000円)	1,000円 (2,000円)	1,500円 (該当学生等と同額)	2,000円	5,000円	2,000円

※④～⑥の利用者の同伴者で、3歳から小学校6年生までは各利用者の半額、2歳までは無料

※宿泊を伴わないセミナー室のみの利用 1日/8,000円 半日/5,000円

●食事の予約について

食事希望の方は予約が必要です。{1名分 朝食500円 夕食1,500円(小学生以下750円)}

バーベキュー：7月～9月までの限定。料金1,800円(小学生以下1,500円)

(施設利用人数が多い場合、設備の関係上バーベキューの要望に応じられない場合があります。)

問い合わせ・申し込み先

下記へ電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、その時にご説明します。

〈学校法人名古屋自由学院 法人事務局総務部総務課 TEL: 0568-24-0311〉

交通アクセス

所在地：〒399-6203 長野県木曾郡木祖村小木曾4793 TEL & FAX: 0264-36-2570

◆自家用車利用の場合

①中央自動車道中津川インターより国道19号約90分 管交差点より村道約15分

②中央自動車道伊那インターより国道316号(権兵トンネル)経由国道19号約30分 管交差点より村道約15分

◆公共交通機関を利用する場合

JR中央西線 藪原駅下車

①村内巡回バス(10月～3月の土・日・祝祭日は運休) バス停「辺見屋敷」又は「スキー場」下車 徒歩15分～20分

②タクシー利用約15分 やぶはらタクシー(要予約 TEL: 0264-36-2403)

周辺の施設・観光地

・こだまの森(テニス、プール、パターゴルフ、多目的運動場、バーベキューハウス、巨大迷路、溪流釣り等)

・やぶはら高原スキー場

編集後記

月日のたつのは早いもので、もう旅立ちの季節になってしまいました。

名芸でも就職、大学院、研究生…それぞれの世界に羽ばたいていかれる事と思います。今年度はまれに見る就職氷河期。まだまだ進路未定の人もおり、なかなか思うようにならず、つらい日々を送っている学生も多くいるようです。さらに、新年が過ぎても経済情勢はなかなか良い方向に行く気配すらありませんが、負けてなんてられません。

卒業生の皆さん方も4年間のいろいろな思い出を胸に、これからも頑張っていって欲しいと願っています。

広報委員長 白井貴子

- ◆発行 名古屋芸術大学後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2012年(平成24年)3月31日

